

## 2. 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生の状況は、当該地域の自然特性を勘案し、事業実施想定区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）等）により整理した。

事業実施想定区域及びその周囲における確認種を抽出した文献その他の資料による調査範囲は、表 3.1-33 のとおりである。

表 3.1-33 文献その他の資料による調査範囲（植物）

文献番号	文献その他の資料名	調査範囲及び調査対象
1	「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）	「西部丘陵地・田園地域 <sup>*</sup> 」に記載されている減少種
2	「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）	「西部丘陵地・田園地域 <sup>*</sup> 」に記載されている減少種
3	「宮城県植物誌」（宮城県植物の会、平成 29 年 7 月）	事業実施想定区域及びその周囲（仙台市太白区秋保町）で確認された種
4	「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」（宮城県 HP、閲覧：令和元年 11 月）	仙台市で確認された種

注：※については、以下のとおりである。

※：文献記載の「地域区分」において事業実施想定区域及びその周囲は、図 3.1-18 のとおり地域区分「西部丘陵地・田園地域」に位置していることから調査対象を「西部丘陵地・田園地域」とした。

### (1) 植物相の概要

事業実施想定区域及びその周囲の植物相の概要を表 3.1-34 のとおり整理した。維管束植物（シダ植物及び種子植物）135 科 943 種（亜種、変種、品種及び雑種を含む。）が確認されている。

表 3.1-34 植物相の概要

分類	科数	主な確認種		
シダ植物	16	スギラン、イワヒバ、スギナ、ヤシヤゼンマイ、オオバノイノモトソウ、コタニワタリ、シシガシラ、ミヤマイタチシダ、ミゾシダ、オクヤマワラビ、ハクモウイノデ、ミツデウラボシ、デンジソウ等 (77 種)		
種子植物	裸子植物	2	モミ、キタゴヨウ、ハイマツ、カヤ (4 種)	
	被子植物	双子葉植物	67	オニグルミ、バッコヤナギ、ヤマハンノキ、クリ、エゾエノキ、ヒメコウゾ、タニタデ、スベリヒユ、カワラナデシコ、シロダモ、ヒトリシズカ、ヤブツバキ、イヌガラシ、マンサク、ウツギ、ウワミズザクラ、ヤブマメ、カタバミ、イタヤカエデ、アオハダ、サクラスミレ、キカラスウリ、ハナウド等 (357 種)
		合弁花類	29	リョウブ、ウメガサソウ、ヤマツツジ、オカトラノオ、エゴノキ、サワフタギ、アオダモ、リンドウ、ヘクソカズラ、ヤブムラサキ、ヤマハッカ、オオアブノメ、タヌキモ、ガマズミ、ミゾカクシ、シロヨメナ、オナモミ等 (215 種)
	単子葉植物	21	ヘラオモダカ、オオシバナ、エビモ、チゴユリ、ヒメジャガ、ハナビゼキシノウ、イヌノヒゲ、ヤマカモジグサ、ツルヨシ、ヒメカイウ、ミクリ、ヒメガマ、アオスゲ、コゴメガヤツリ、シュンラン、ショウキラン等 (290 種)	
合計	135 科 943 種			

注：1. 種名及び配列については原則として、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）に準拠した。

2. 確認種については、表 3.1-33 に示す文献その他の資料より抽出した。

## (2) 植生の概要

「平成 27 年度仙台市現存植生図」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）をもとに調査した結果、事業実施想定区域及びその周囲の現存植生は図 3.1-23 のとおりである。植生図の凡例、植生自然度及び仙台市の特性区分については表 3.1-37 に整理した。なお、植生自然度については「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）を基準とした（表 3.1-35）。また、「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）では、環境省の植生自然度 9、10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」として位置づけている。

事業実施想定区域及びその周辺には落葉広葉低木群落、クリーコナラ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、アカマツ群落（V）、水田雑草群落等が分布している。事業実施想定区域内は、「植林地・耕作地植生」であるゴルフ場・芝地と「ヤブツバキクラス域代償植生」であるクリーコナラ群集が多くを占めており、次いでスギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地、落葉広葉低木群落、開放水域及び路傍・空地雑草群落がわずかながら分布している。

事業実施想定区域及びその周囲の植生自然度は表 3.1-37 及び図 3.1-24 のとおりであり、植生自然度 10 及び 9 は事業実施想定区域の南側を流れる名取川沿いや、東側の山地等に分布している。自然度 7 が北西から南東に帯状に広範囲に広がり、その中に自然度 6、9、2 及び 4 が点在している。自然度 2 も河川沿いに北西から南東に帯状に広がっており、北東部に自然度 1 も確認できる。事業実施想定区域内では、自然度 2、4、6、7 が確認され、仙台市の特性区分（表 3.1-36）としては景観的要素に該当する IV、V 及び VI が確認された（表 3.1-37）。

表 3.1-35 植生自然度の区分基準

植生自然度	区 分 基 準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギーコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

〔「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）より作成〕

表 3.1-36 仙台市が提示する特性区分

番号	特性区分	判断理由
I	希少性の高い植生	仙台市において分布面積が少ない植生。又は、人為的に他の植生に置き換えられる等、現在では少ない面積しか認められない植生。
II	脆弱性の高い植生	立地環境の特殊性が高く、人為による影響が顕著に表れやすいと考えられる植生。急峻な尾根や湿地等、特殊な立地に成立する植生が該当する。
III	自然性の高い植生	環境省の植生自然度 9、10（自然植生）に該当する植生。
IV	景観的要素	新緑の美しい植生
V		紅葉の美しい植生
VI		人里的風景を構成する植生

〔平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書〕（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）より作成

表 3.1-37 現存植生図凡例及び仙台市の特性区分

植生区分	図中番号	凡例名	事業実施想定区域内 ※1	植生自然度※2	仙台市の特性区分※3
ブナクラス域自然植生	1	モミイヌブナ群集		9	III IV V
	2	ケヤキ群落 (IV)		9	II III IV V
	3	ヤナギ高木群落 (IV)		9	III IV
	4	ヤナギ低木群落 (IV)		9	III IV
ブナクラス域代償植生	5	アカマツ群落 (V)		7	VI
	6	落葉広葉低木群落	○	7	-
	7	ススキ群団 (V)		5	VI
	8	伐採跡地群落 (V)		4	-
ヤブツバキクラス域代償植生	9	クリーコナラ群集	○	7	IV V VI
河川・湿原・塩沼地・砂丘植生等	10	ヨシクラス		10	III
	11	ヒルムシロクラス		10	II III VI
植林地・耕作地植生	12	スギ・ヒノキ・サワラ植林	○	6	VI
	13	竹林		7	IV VI
	14	ゴルフ場・芝地	○	2	-
	15	牧草地		2	-
	16	路傍・空地雑草群落	○	4	-
	17	果樹園		3	VI
	18	畑雑草群落		2	VI
	19	水田雑草群落		2	VI
市街地等	20	市街地		1	-
	21	緑の多い住宅地	○	2	VI
	22	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等		2	-
	23	造成地		1	-
	24	開放水域	○	-	-
	25	自然裸地		-	-

注：1. 図中番号は図 3.1-23 の現存植生図内の番号に対応し、植生自然度は表 3.1-35 に基づく。

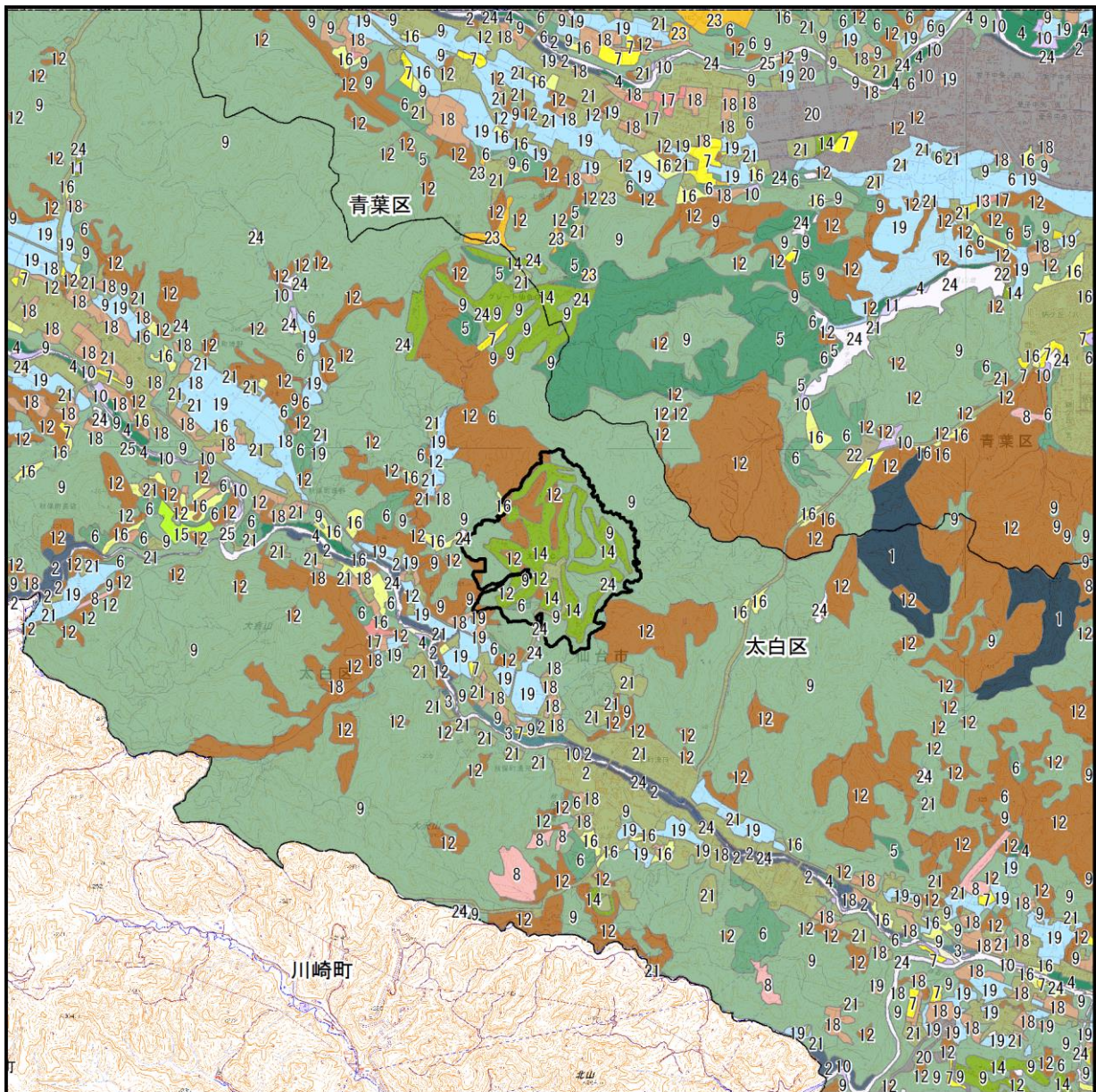
2. 表中の※については以下のとおりである。

※1：事業実施想定区域内で確認された植生について○と記載した。

※2：植生自然度の数字は表 3.1-35 に対応している。

※3：仙台市の特性区分の数字は表 3.1-36 の番号に対応している。

〔平成 27 年度仙台市現存植生図〕（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）より作成



凡 例	
	事業実施想定区域
	市区町境界
	1, モミ-イヌブナ群集
	2, ケヤキ群落 (IV)
	3, ヤナギ高木群落 (IV)
	4, ヤナギ低木群落 (IV)
	5, アカマツ群落 (V)
	6, 落葉広葉低木群落
	7, ススキ群団 (V)
	8, 伐採跡地群落 (V)
	9, クリ-コナラ群集
	10, ヨシクラス
	11, ヒルムシロクラス
	12, スギ・ヒノキ・サワラ植林
	13, 竹林
	14, ゴルフ場・芝地
	15, 牧草地
	16, 路傍・空地雑草群落
	17, 果樹園
	18, 畑雑草群落
	19, 水田雑草群落
	20, 市街地
	21, 緑の多い住宅地
	22, 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
	23, 造成地
	24, 開放水域
	25, 自然裸地

1:50,000

「平成 27 年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月) より作成

図 3.1-23(1) 文献その他の資料調査による現存植生図



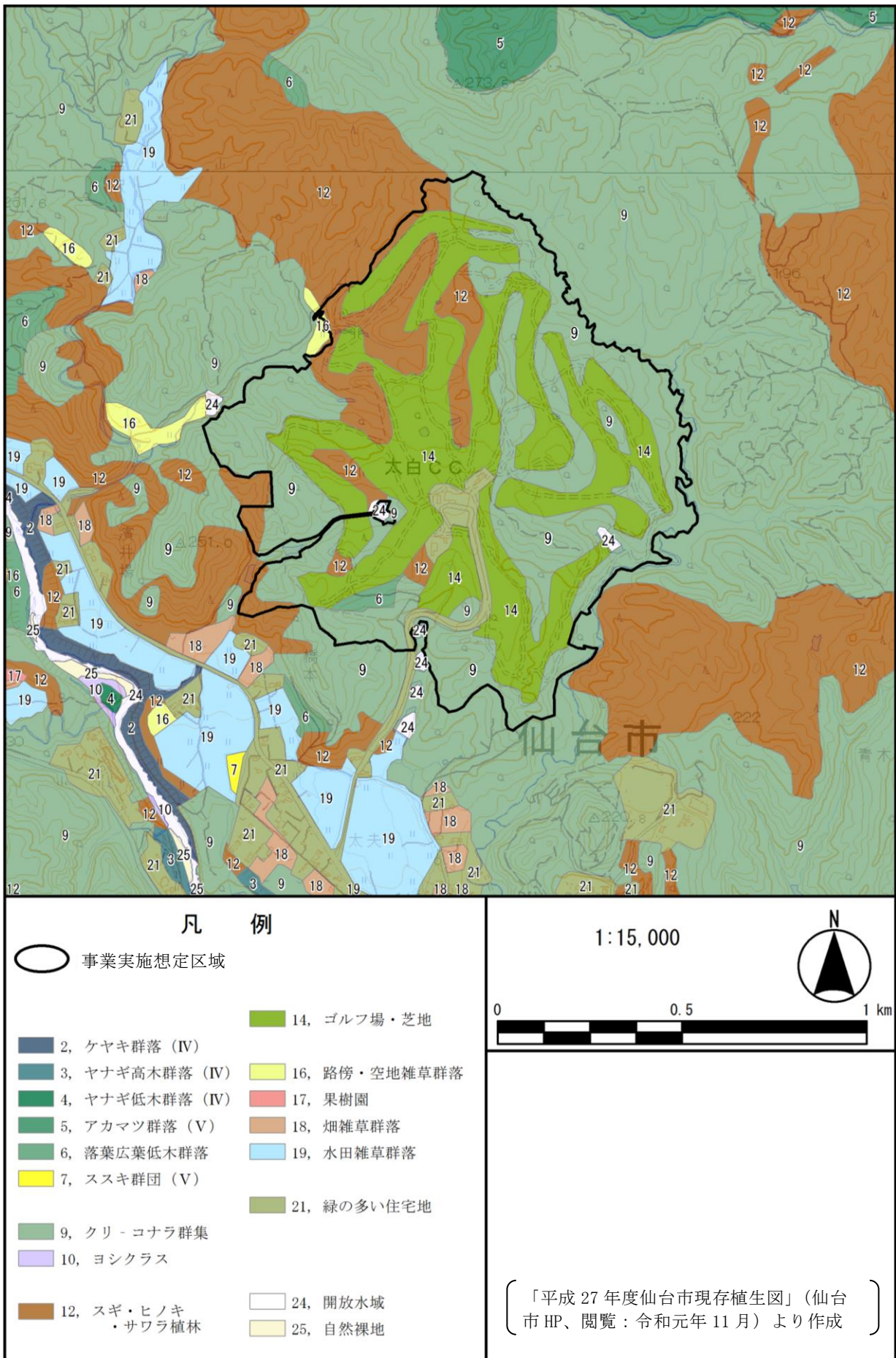
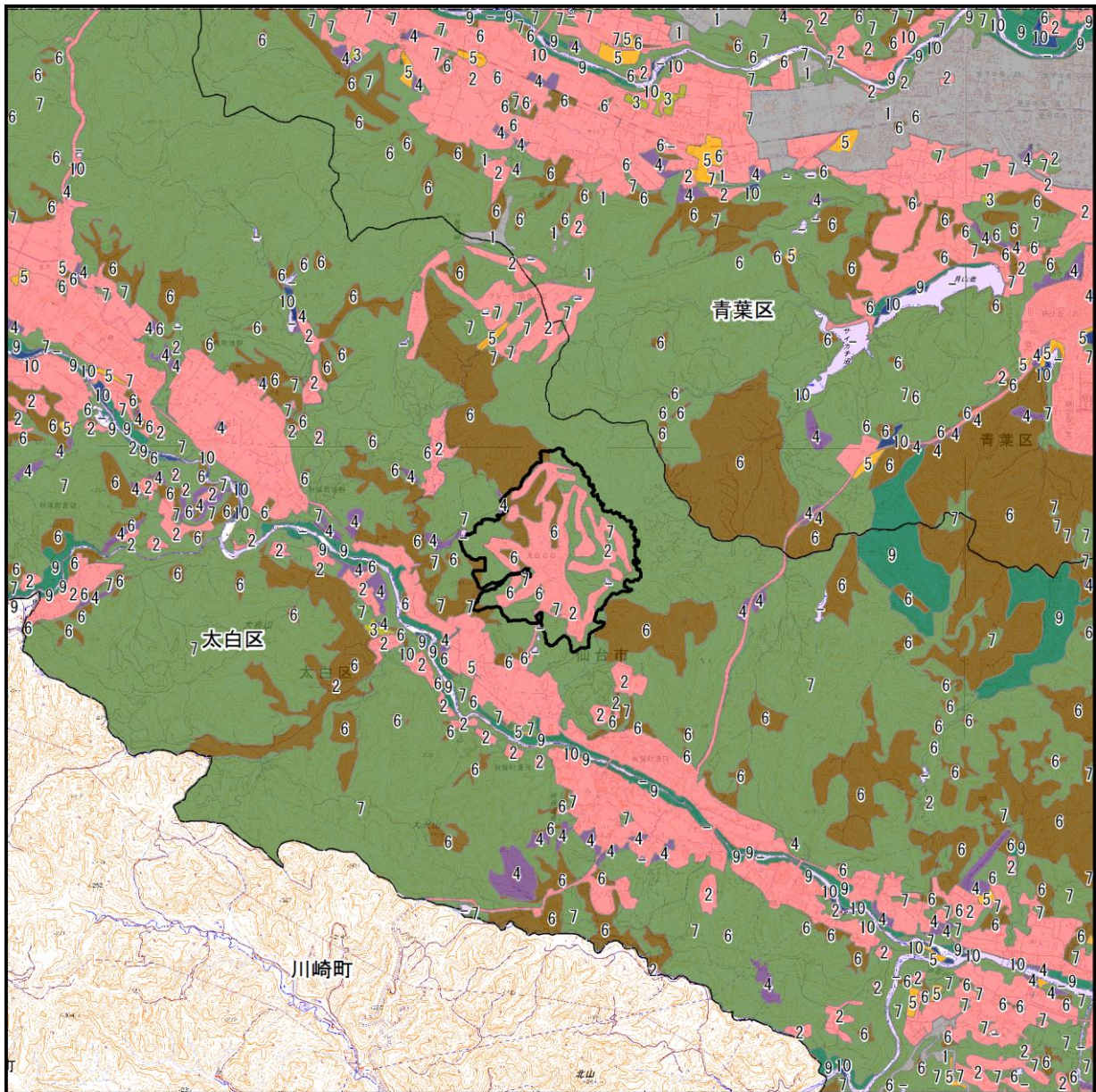


図 3.1-23 (2) 文献その他の資料調査による現存植生図(拡大図)





<b>凡 例</b>		1:50,000		
	事業実施想定区域			
	市区町境界			
	植生自然度1			
	植生自然度2			
	植生自然度3			
	植生自然度4			
	植生自然度5			
	植生自然度6			
	植生自然度7			
	植生自然度9			
	植生自然度10			

「平成 27 年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、  
 閲覧：令和元年 11 月) 及び「平成 27 年度 仙  
 台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市  
 HP、閲覧：令和元年 11 月) より作成

図 3.1-24 文献その他の資料調査による現存植生図(植生自然度)

(3) 植物の重要な種及び重要な群落

① 重要な種

植物の重要な種の選定基準は、表 3. 1-38 のとおりである。

植物の重要な種は、「(1) 植物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、選定基準に基づき学術上又は希少性の観点から選定した。その結果、重要な種は表 3. 1-39 のとおりハイマツ、サクラソウ、アヤメ等 103 科 423 種であったが、事業実施想定区域における確認位置情報は得られなかった。

表 3. 1-38(1) 植物の重要な種の選定基準（国・宮城県・仙台市）1

	選定基準	文献その他の資料	
①	<p>「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日)</p> <p>「宮城県文化財保護条例」(昭和 50 年宮城県条例第 49 号)</p> <p>「仙台市文化財保護条例」(昭和 37 年仙台市条例第 27 号)</p>	<p>特天：特別天然記念物</p> <p>国天：天然記念物</p> <p>県天：県指定天然記念物</p> <p>市天：市指定天然記念物</p>	<p>「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「宮城県の天然記念物一覧」(宮城県 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「仙台市の文化財一覧」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)</p>
②	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和元年 11 月 7 日)</p>	<p>国内：国内希少野生動植物種</p> <p>特定：特定国内希少野生動植物種</p> <p>緊急：緊急指定種</p>	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和元年 11 月 7 日)</p>
③	<p>「環境省レッドリスト 2019」(環境省、平成 31 年)の掲載種</p>	<p>EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p> <p>EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種</p> <p>CR：絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</p> <p>EN：絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p> <p>VU：絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種</p> <p>NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</p> <p>DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種</p> <p>LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	<p>「環境省レッドリスト 2019 の公表について」(環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月)</p>

表 3.1-38(2) 植物の重要な種の選定基準（国・宮城県・仙台市）2

選定基準		文献その他の資料
④	<p>「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」（宮城県 HP、閲覧：令和元年 11 月）</p> <p>EX：絶滅・・・宮城県ではすでに絶滅したと考えられる種。環境省カテゴリーの「絶滅」に相当。</p> <p>EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種。環境省カテゴリーの「野生絶滅」に相当。</p> <p>CR+EN：絶滅危惧類・・・本県において絶滅の危機に瀕している種。環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅰ類」に相当。</p> <p>VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・宮城県において絶滅の危険が増大している種環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅱ類」に相当。</p> <p>NT：準絶滅危惧・・・宮城県において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位に移行する要素を有するもの。環境省カテゴリーの「準絶滅危惧」に相当。</p> <p>DD：情報不足・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。環境省カテゴリーの「情報不足」に相当。</p> <p>要：要注目種：宮城県では、現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種。県独自のカテゴリー。隔離分布種、分布北限・南限種、基準産地種、その他。</p>	<p>「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」（宮城県 HP、閲覧：令和元年 11 月）</p>

表 3.1-38(3) 植物の重要な種の選定基準（保全上重要な種の選定基準：仙台市）

選定基準		カテゴリー及び説明		
⑤	仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。
			2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となる種。
			3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。
			4	1、2、3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている種など）
	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生育したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。	
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生育していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。	
		A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。	
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。	
		C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。	
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。	
		/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。	
	環境指標種	・	絶滅。過去に仙台市に生育したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。	
		○	本市の各環境分類における環境を指標する種。（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標。）	

注：減少種の地域区分として、事業実施想定区域は「西部丘陵地・田園地域」に該当する（図 3.1-18 参照）ため、「西部丘陵地・田園地域」に記載されているカテゴリーを抽出した。

〔「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）より作成〕



表 3.1-39(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
1	ヒカゲノカズラ	スギラン			VU	CR+EN	1	・		
2	イワヒバ	ヒモカズラ					1	・		
3		イワヒバ					1	B	○	
4	ミズニラ	ミズニラ			NT	NT	1	B		
5	トクサ	イヌスギナ						B		
6	ゼンマイ	ヤシヤゼンマイ				NT	1	C		
7	コケシノブ	コウヤコケシノブ					1	・		
8		ヒメハイホラゴケ					1	・		
9	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ					1,2	B		
10		イノモトソウ				NT	1,2	・		
11	チャセンシダ	コタニワタリ						B		
12	オシダ	ナンタイシダ				要	1,2	・		
13		ハカタシダ				CR+EN	1,2	・		
14		リョウメンシダ						B	○	
15		キヨスミヒメワラビ				VU	1,2	・		
16		オシダ						B		
17		オオクジャクシダ						1	・	
18		ニオイシダ						1,4	・	
19		オオベニシダ						1,2	・	
20		ギフベニシダ				CR+EN	1,2	・		
21		アスカイノデ						2	・	
22		アイアスカイノデ						2	・	
23		イワシロイノデ							B	
24		イノデ						2	・	
25		サカゲイノデ							B	
26	ジュウモンジシダ							B	○	
27	ヒメシダ	ヒメワラビ					2	B		
28	メシダ	オクヤマワラビ				CR+EN	1	・		
29		ホソバイヌワラビ				NT		C		
30		シケチシダ				要	1,2	・		
31		ヤリノホシケシダ				NT	1	・		
32		セイタカシケシダ				VU	1	・		
33		ウサギシダ				VU	1	・		
34		イヌガンソク							C	
35		クサソテツ							B	
36		ウラボシ	ヒメサジラン					1	・	
37	イワオモダカ					VU	1	・		
38	デンジソウ	デンジソウ			VU	EW				
39	サンショウモ	サンショウモ			VU	NT	1	EX		
40	マツ	モミ						C	○	
41		キタゴヨウ					4	・		
42		ハイマツ					1,4	・	○	
43	イチイ	カヤ						B		
44	クルミ	オニグルミ						B	○	
45	ヤナギ	ネコヤナギ					4	C	○	
46		シライヤナギ				CR+EN	1	・		
47		キツネヤナギ							C	○
48		オオバヤナギ				NT	1	・		
49	カバノキ	ハンノキ					1,4	C	○	
50		ミズメ							C	
51		ウダイカンバ					4	C		

表 3.1-39(2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
52	カバノキ	サワシバ						B	○	
53		アカシデ						B	○	
54		イヌシデ					4	B	○	
55	ブナ	ブナ					4	B		
56		イヌブナ					1,4	B	○	
57		アカガシ					2	C	○	
58		アオナラガシワ					1	・		
59		アラカシ				要	1,2	C		
60		ミズナラ						B		
61		シラカシ					2	C	○	
62		ウラジロガシ					2	C		
63		ニレ	エノキ					4	B	
64	オヒョウ							・		
65	ケヤキ							C	○	
66	イラクサ	マルバヤブマオ				VU	1	B		
67		トキホコリ			VU	VU	1	B		
68		コケミズ				NT	1	・		
69	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ			VU	VU	1	・		
70	タデ	ヒメタデ			VU	VU		・		
71		ホソバイヌタデ			NT	NT				
72		ヤナギヌカボ			VU	要	1	・		
73		イヌタデ						・	○	
74		サデクサ				NT	1	・		
75		ミゾソバ						C	○	
76		ノダイオウ			VU	要	1,4	C		
77		マダイオウ				CR+EN		A		
78	ザクロソウ	ザクロソウ					1	・		
79	ナデシコ	カワラナデシコ						C		
80		タカネナデシコ				VU		・		
81		ナンブワチガイソウ			VU	NT	1	C		
82		シラオイハコベ				CR+EN <sup>*1</sup>	1	・		
83	アカザ	ハママツナ				NT	2	・	○	
84	モクレン	タムシバ						・	○	
85	マツブサ	チョウセンゴミシ				CR+EN		A		
86	クスノキ	ヤマコウバシ					1,2	B		
87		オオバクロモジ						・	○	
88		シロダモ						2	+	○
89	キンポウゲ	フクジュソウ				VU	1	B		
90		ニリンソウ						B	○	
91		ヒメキンポウゲ			VU	CR+EN				
92		スハマソウ			NT <sup>*2</sup>	NT		B		
93		キクザキイチゲ						B	○	
94		レンゲショウマ						1	B	
95		リュウキンカ						・	○	
96		カザグルマ			NT	VU	1	B		
97		トウゴクサバノオ						1	B	
98		オキナグサ			VU	CR+EN	1	A		
99		コキツネノボタン			VU	VU	1	・		
100		バイカモ					1	B		
101	シラネアオイ	シラネアオイ						B	○	
102	メギ	トガクシショウマ			NT	CR+EN	1	・		

表 3.1-39(3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
103	スイレン	オニバス			VU	EX	1	EX		
104	マツモ	マツモ					1	・		
105		ヨツバリキンギョモ					1,2	・		
106	ドクダミ	ハンゲショウ				VU		・		
107	ウマノスズクサ	トウゴクサイシン						B	○	
108		ミチノクサイシン			VU	NT				
109	ボタン	ヤマシャクヤク			NT	CR+EN	1	B		
110		ベニバナヤマシャクヤク			VU	VU	1	A		
111	ツバキ	ヤブツバキ						B	○	
112	オトギリソウ	オシマオトギリ				VU		B		
113	モウセンゴケ	モウセンゴケ						C		
114	ケシ	ナガミノツルキケマン			NT		1	C		
115		ヤマブキソウ					1	B		
116		オサバグサ				CR+EN				
117	アブラナ	ナズナ						B	○	
118		ミズタガラシ				VU		・		
119	ベンケイソウ	チチツパベンケイソウ					1	・		
120		キリンソウ						・	○	
121		ミヤママンネングサ				VU		・		
122	ユキノシタ	トリアシショウマ						B		
123		コガネネコノメソウ					1,2	・		
124		コチャルメルソウ						・	○	
125		タコノアシ			NT				B	
126		ヤシャビシヤク			NT	VU	1	・		
127		ザリコミ				CR+EN	1	・		
128		トガスグリ				VU	1	・		
129		シコタンソウ				VU	1	・		
130		ダイモンジソウ						・	○	
131		エゾクロクモソウ					1	・		
132		ユキノシタ							B	
133	バラ	ザイフリボク					1	B		
134		ヤマブキ							C	○
135		イワキンバイ							・	○
136		キンロバイ			VU	CR+EN	1	・		
137		ヒロハノカワラサイコ			VU	NT			B	
138		エチゴキジムシロ				要			B	
139		ミヤマザクラ				CR+EN		・		
140		カスミザクラ							C	○
141		オオタカネイバラ				CR+EN <sup>※3</sup>	1	・		
142		ハマナス				NT	4	・	○	
143		サナギイチゴ			VU	要			B	
144		カジイチゴ					1,2	・		
145		ミヤマウラジロイチゴ				CR+EN	1	・		
146		マルバヌスビトハギ				要	1	・		
147		ケヤブハギ				要				
148		ツクシハギ							B	○
149		イヌハギ			VU	NT	1	・		
150		マキエハギ				NT	1	・		
151		オオバタンキリマメ				NT			C	
152		センダイハギ				CR+EN	1	・		
153		タヌキマメ				CR+EN			EX	



表 3.1-39(4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
154	フウロソウ	コフウロ					1	・		
155	トウダイグサ	ノウルシ			NT	要		・		
156		マルミノウルシ			NT	VU		B		
157	ユズリハ	ユズリハ					1,2	C		
158	ミカン	ミヤマシキミ					1	C		
159	カエデ	ナンゴクミネカエデ						・	○	
160		ハウチワカエデ						C		
161		イタヤカエデ						C		
162		メグスリノキ					1	B		
163		ヤマモミジ						B	○	
164		ウリハダカエデ						C		
165	トチノキ	トチノキ						C		
166	モチノキ	イヌツゲ						C		
167		ソヨゴ				NT	1,2	C		
168		アカミノイヌツゲ						・	○	
169	シナノキ	カラスノゴマ					1	A		
170	スマレ	サクラスマレ					1	B		
171		フモトスマレ				VU	1	B		
172		ナガハシスマレ					1	B		
173		ヒゴスマレ				CR+EN		・		
174	ミソハギ	ミズマツバ			VU	VU	1	・		
175	ヒシ	ヒメビシ			VU	CR+EN		A		
176		ヒシ						B	○	
177	アカバナ	ヤナギラン				CR+EN		A		
178	アリノトウグサ	タチモ			NT	VU	1	・		
179	ミズキ	アオキ						C	○	
180	ウコギ	コシアブラ						C		
181	セリ	ハナビゼリ				NT	1	・		
182		ミシマサイコ			VU	CR+EN	1	B		
183		ハマボウフウ					1	・		
184		ハナウド				NT		C		
185		オオカサモチ				NT	1	・		
186		イワセントウソウ					1	・		
187		タニミツバ					VU	1	C	
188		サワゼリ			VU <sup>*4</sup>	NT <sup>*4</sup>	1	・		
189	イワウメ	コイワウチワ					1,4	C	○	
190	イチヤクソウ	ウメガサソウ						C	○	
191		ベニバナイチヤクソウ					1	・		
192	ツツジ	ヤマツツジ						C	○	
193		シロヤシオ						C	○	
194		トウゴクミツバツツジ					2	B		
195		ナツハゼ						C		
196	ヤブコウジ	ヤブコウジ						・	○	
197	サクラソウ	クリンソウ				VU	1	B		
198		ユキワリコザクラ					1	・		
199		サクラソウ			NT	CR+EN	1	A	○	
200	エゴノキ	オオバアサガラ					1	A		
201	モクセイ	イボタノキ						B	○	
202	マチン	アイナエ				CR+EN		A		
203	リンドウ	コケリンドウ				CR+EN		A		
204		ホソバツルリンドウ			VU	VU <sup>*5</sup>	1	C		

表 3.1-39(5) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
205	リンドウ	イヌセンブリ			VU	VU	1	・		
206	ミツガシワ	ヒメシロアサザ			VU	VU	1	・		
207	ガガイモ	フナバラソウ			VU	VU	1	・		
208		タチガシワ					1	・		
209		スズサイコ			NT	VU	1	A		
210		コカモメヅル				VU	1	・		
211	アカネ	オオキヌタソウ				NT		・		
212	ヒルガオ	ハマヒルガオ						・	○	
213	ムラサキ	ムラサキ			EN	CR+EN	1	A		
214		ルリソウ				NT		C		
215	クマツヅラ	クマツヅラ				VU		B		
216	シソ	ヒロハヤマトウバナ					1	・		
217		フトボナギナタコウジュ					1、2	・		
218		ヒメハッカ			NT	CR+EN	1	・		
219		シラゲヒメジソ				要	1	・		
220		タテヤマウツボグサ					1	・		
221		タイリンヤマハッカ				NT		C		
222		ナミキソウ				NT		・		
223		エゾニガクサ			EN	CR+EN	1	・		
224		ゴマノハグサ	マルバサワトウガラシ			VU**6	VU**6		B	
225			アブノメ				VU		B	
226	オオアブノメ				VU	要	1	・		
227	ウンラン							・		
228	サギゴケ							C	○	
229	ミヤマシオガマ					VU		・		
230	ミチノククワガタ					VU		・		
231	ヒヨクソウ					NT		・		
232	クワガタソウ					VU		B		
233	イヌノフグリ				VU	VU	1	・		
234	カワヂシャ				NT	NT	1	・		
235	ハマウツボ	オオナンバンギセル					1	B		
236		キヨスミウツボ				VU	1	・		
237	タヌキモ	ムシトリスミレ					1	・		
238		タヌキモ			NT	CR+EN	1	・		
239		ミミカキグサ				CR+EN		・		
240		フサタヌキモ			EN	EX	1	EX		
241		ヒメタヌキモ			NT	CR+EN	1	A		
242		イヌタヌキモ			NT	VU	1	B		
243		ムラサキミミカキグサ			NT	NT	1	A		
244	オオバコ	オオバコ						・	○	
245	スイカズラ	エゾヒョウタンボク			VU	CR+EN	1	・		
246		クロミノウグイスカグラ				NT	1	・		
247		ニッコウヒョウタンボク				要	1、2	・		
248		オオカメノキ						・	○	
249	レンプクソウ	レンプクソウ				NT	1	・		
250		オミナエシ						B	○	
251		マツムシソウ					1	A		
252		シデシャジン					1	・		
253		キキョウ			VU	VU	1	B	○	
254	キク	オクモミジハグマ						C	○	
255		キッコウハグマ						B	○	

表 3.1-39(6) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
256	キク	オケラ						B	○	
257		エゾノタウコギ				VU		B		
258		ヒメガンクビソウ				VU		B		
259		アワコガネギク			NT <sup>*7</sup>			C		
260		イワインチン					1,2	・		
261		アズマギク				VU	1	B	○	
262		フジバカマ			NT			C		
263		タカサゴソウ			VU	VU		・		
264		ノニガナ				NT		・		
265		カワラニガナ			NT	VU		・		
266		カシワバハグマ				VU		B		
267		オオニガナ				NT	1	C		
268		シュウブソウ					1,2	・		
269		ミヤコアザミ				CR+EN	1	A		
270		ヒメヒゴタイ			VU	CR+EN	1	・		
271		オカオグルマ				VU		B		
272		アキノキリンソウ						C	○	
273		アオヤギバナ				VU		・		
274		エゾタンポポ						C	○	
275		オナモミ			VU	VU		B		
276		オモダカ	ヘラオモダカ					C	○	
277			サジオモダカ				NT		C	○
278			アギナシ			NT	VU		C	○
279			ウリカワ						C	○
280			オモダカ						C	○
281			ホソバオモダカ						C	○
282		トチカガミ	クロモ					B	○	
283	ミズオオバコ				VU	NT	1	B		
284	コウガイモ					CR+EN		・		
285	ホロムイソウ	オオシバナ			NT	CR+EN	1	・	○	
286	ヒルムシロ	エビモ					B	○		
287		コバノヒルムシロ			VU	VU		C	○	
288		ヒルムシロ						C	○	
289		フトヒルムシロ						C	○	
290		オオミズヒキモ						C	○	
291		センニンモ				VU		C	○	
292		オヒルムシロ						C	○	
293		ホソバミズヒキモ				VU		C	○	
294		イトモ			NT	要	1	C		
295		イバラモ	ホッサモ				VU		・	
296	サガミトリゲモ				VU	VU	1	・		
297	イトトリゲモ				NT	NT	1	B		
298	トリゲモ				VU	CR+EN	1	B		
299	オオトリゲモ					CR+EN	1	B		
300	ユリ	ヤマラッキョウ				VU		・		
301		スズラン				VU		B		
302		カタクリ						B		
303		ショウジョウバカマ						B	○	
304		ニッコウキスゲ						B		
305		コオニユリ						B		



表 3.1-39(7) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤			
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
306	ユリ	ヤマスカシユリ			NT	CR+EN	1	・		
307		ヒメヤブラン						C	○	
308		オオバジャノヒゲ						B		
309		ヒメイズイ				NT		・		
310		ユキザサ						C	○	
311		マルバサンキライ					CR+EN		A	
312	キンバイザサ	コキンバイザサ				EX	1,2	EX		
313	ミズアオイ	ミズアオイ			NT			・	○	
314		コナギ						・	○	
315	アヤメ	ヒオウギ				CR+EN	1	・		
316		ノハナショウブ					1	C	○	
317		ヒメシャガ			NT	NT		B	○	
318		カキツバタ			NT	VU	1	B		
319		アヤメ				NT		C		
320	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ				VU		・		
321	ツユクサ	ヤブミョウガ				CR+EN		A		
322	ホシクサ	ホシクサ				要	1	・		
323	イネ	ヤマアワ						B		
324		ヒナザサ			NT	VU		B		
325		メヒシバ						・	○	
326		デンキグサ						1,4	・	○
327		カゼクサ							B	○
328		オオウシノケグサ						4	B	○
329		ウキガヤ				NT			・	
330		カラフトドジョウツナギ				NT			・	
331		ケカモノハシ							・	○
332		カモノハシ						1	・	
333		エゾノサヤヌカグサ							・	
334		オギ							C	○
335		アイアシ				NT		1	・	○
336		ヨシ							C	○
337	ツルヨシ							C	○	
338	アキウネマ加里					CR+EN	1	・		
339	オオクマザサ						3	・		
340	ヒメスズタケ					NT <sup>**8</sup>		C		
341	スエコザサ						3	・		
342	スズタケ							C	○	
343	ケスズ						1	B		
344	ネズミノオ							・	○	
345	マコモ							B	○	
346	シバ							B	○	
347	サトイモ	ヒメカイウ			NT	CR+EN	1	・		
348		ミズバショウ						B	○	
349		ヒメザゼンソウ						B		
350	ミクリ	ミクリ			NT	NT	1	B	○	
351		ヤマトミクリ			NT	CR+EN	1	A		
352		タマミクリ			NT	CR+EN	1	・		
353		ナガエミクリ			NT	NT	1	A		
354		ヒメミクリ			VU	VU	1	B		
355	ガマ	ヒメガマ						C		
356		ガマ						C	○	

表 3.1-39(8) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準						
			①	②	③	④	⑤		
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種
357	カヤツリグサ	ハコネイトスゲ				CR+EN		A	
358		サナギスゲ				CR+EN		A	
359		ヤマクボスゲ			NT	VU	1	・	
360		コウボウムギ						・	○
361		タチスゲ				CR+EN	1	・	
362		タヌキラン						・	○
363		マメスゲ				CR+EN	1	・	
364		オオカサスゲ						B	
365		オオクグ			NT	NT	1	・	
366		センダイスゲ					4	・	
367		オニナルコスゲ				NT		・	
368		クグガヤツリ				CR+EN		・	
369		スジヌマハリイ			VU	VU	1	・	
370		サギスゲ				NT		C	
371		ナガボテンツキ				VU	2	・	
372		マメクグ				VU		B	
373		ノグサ				VU		B	
374		フトイ						B	
375		カンガレイ						B	
376		サンカクイ						B	
377	ラン	コアニチドリ			VU	CR+EN	1	・	
378		エビネ			NT	VU	1	A	
379		キンセイラン			VU	CR+EN	1	B	
380		サルメンエビネ			VU	CR+EN	1	B	
381		ユウシュンラン			VU	NT	1	B	
382		キンラン			VU	VU	1	B	
383		クゲヌマラン			VU	CR+EN	1	・	
384		シュンラン						C	○
385		コアツモリソウ			NT	CR+EN	1	B	
386		クマガイソウ			VU	CR+EN	1	A	
387		アツモリソウ		特定	VU	CR+EN	1	A	
388		イチヨウラン				CR+EN	1	・	
389		セッコク				CR+EN	1	EX	
390		エゾスズラン				NT	1	A	
391		ハマカキラン			VU	NT	1	・	
392		アオキラン			CR	CR+EN	1	・	
393		ノビネチドリ				VU		・	
394		ミヤマモジズリ				CR+EN	1	・	
395		オオミズトンボ			EN	CR+EN	1	B	
396		サギソウ			NT	CR+EN	1	A	
397		ミズトンボ			VU	CR+EN	1	A	
398		ムカゴソウ			EN	VU	1	・	
399		ヒメノヤガラ			VU	VU	1	・	
400		ギボウシラン			EN	CR+EN	1	・	
401		フガクスズムシソウ			VU	CR+EN	1	・	
402		ジガバチソウ				NT		C	
403		クモキリソウ					1,4	B	
404		フタバラン				CR+EN <sup>**9</sup>		A	
405		ヒメフタバラン				要	2	・	
406		サカネラン			VU		1	・	

表 3.1-39(9) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	科名	種名	選定基準						
			①	②	③	④	⑤		
							学術上 重要種	減少種	環境 指標種
407	ラン	ヒナチドリ			VU	CR+EN	1	A	
408		カモメラン			NT	CR+EN	1	・	
409		オノエラン					1	・	
410		ウチョウラン			VU	CR+EN	1	A	
411		ミズチドリ				VU		B	
412		ツレサギソウ				NT		C	
413		ヤマサギソウ				VU		・	
414		マイサギソウ				CR+EN	1	・	
415		オオバノトンボソウ				VU <sup>※10</sup>		B	
416		トキソウ			NT	VU	1	A	
417		ヤマトキソウ				CR+EN		A	
418		マツラン			VU	CR+EN	1	B	
419		カヤラン				VU	1	B	
420		ネジバナ						B	○
421		イイヌマムカゴ			EN	CR+EN	1	・	
422		ハクウンラン				VU	1	・	
423		ショウキラン				CR+EN	1	・	
-	103 科	423 種	0 種	1 種	109 種	232 種	223 種	417 種	104 種

注：1. 表内の選定基準の No 及びカテゴリーの記号等は表 3.1-23 に対応している。

2. 表中の※については以下のとおりである。

※1：エゾフスマで掲載

※2：ミスミソウで掲載

※3：オオタカネバラで掲載

※4：ヌマゼリで掲載

※5：ホソバノツルリンドウで掲載

※6：マルバノサワトウガラシで掲載

※7：キクタニギクで掲載

※8：ヒメスズダケで掲載

※9：コフタバランで掲載

※10：ノヤマトンボで掲載



② 重要な群落等

事業実施想定区域及びその周囲を対象に植物の重要な群落等について表 3.1-40 に示す法令や規制等の選定基準に基づき抽出した。

表 3.1-40 植物の重要な群落の選定基準

	選定基準	文献その他の資料
①	<p>「第2回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁、昭和56年)、「第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁、昭和63年)、「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成12年)に掲載されている特定植物群落</p> <p>A: 原生林もしくはそれに近い自然林            B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群            C: 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群            D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの            E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの            F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの            G: 乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群            H: その他、学術上重要な植物群落または個体群</p>	<p>「第2回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁、昭和56年)、「第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁、昭和63年)、「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成12年)</p>
②	<p>「宮城県のある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県 HP、閲覧：令和元年11月)</p> <p>D: 壊滅 (D) …群落は壊滅した            4: 壊滅状態 (4) …群落は全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する            3: 壊滅危惧 (3) …対策を講じなければ、群落は徐々に悪化して壊滅する            2: 破壊危惧 (2) …群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある            1: 要注意 (1) …現在、保護・管理状態がよく、当面破壊されるおそれが少ない。しかし、監視は必要である</p>	<p>「宮城県のある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県 HP、閲覧：令和元年11月)</p>
③	<p>「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成8年)に掲載の植物群落</p> <p>4: 緊急に対策必要            3: 対策必要            2: 破壊の危惧            1: 要注意</p>	<p>「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成8年)</p>
④	<p>「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市 HP、閲覧：令和元年11月)に掲載の「植物生育地として重要な地域」</p> <p>1: 保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域 (動物の繁殖場、集団越冬・集団越冬地となっている地域など)            2: 多様な生物相が保存されている地域            3: 自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域            4: 湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域            5: 自然とのふれあいの場としてふさわしい地域            6: 環境教育の場としてふさわしい地域            7: 郷土の特色が保存されている地域 (里地里山・居久根等)            8: 緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域 (山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等)            9: 海辺や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域</p>	<p>「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市 HP、閲覧：令和元年11月)</p>
⑤	<p>「平成27年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、閲覧：令和元年11月)に掲載の植生自然度10及び植生自然度9の植生</p> <p>植生自然度10: 自然草原 (高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区)            植生自然度9: 自然林 (エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区)</p>	<p>「平成27年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、閲覧：令和元年11月)</p>

事業実施想定区域及びその周囲において、表 3.1-41 のとおり重要な群落等の存在が確認された。

「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成 8 年)において、仙台市で 6 件の植物群落(表 3.1-41(1))が指定されている。ただし、詳細な位置情報は公表されていない。

「平成 27 年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)によると表 3.1-41(2)及び図 3.1-25 のとおり、植物の生育地として重要な地域として 6 件確認され、事業実施想定区域は「奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生」の範囲に含まれている。重要な群落として植生自然度 10 及び 9 に該当する植生についても抽出した。

「平成 27 年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)に対応する植生自然度は表 3.1-41(3)のとおりである。事業実施想定区域内に植生自然度 10 及び 9 に該当する植生は確認されていない。

なお、「第 2 回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁、昭和 56 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁自然保護局 生物多様性センター、平成 12 年)及び「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(宮城県、平成 28 年)に掲載されている植物群落や特定植物群落は確認されなかった。

表 3.1-41(1) 重要な植物群落

対象範囲	名称	選定基準
仙台市	アカマツ群落	2
	クロマツ群落	2
	モミ群落	1・2
	ヨシ群落	2
	アイアシ群落	2
	オニシバ群落	2

注：選定基準は表 3.1-40 の③参照  
 [「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成 8 年)より作成]

表 3.1-41(2) 重要な植物群落(仙台市：植物の生育地として重要な地域)

地域名	備考	判断理由
月山池・サイカチ沼周辺の植生	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。池内にはヨシ群落、マコモ群落、ヒシ群落、多様な湿生・水生植物群落が成立し、市内では分布面積も少ないことから貴重。	2・4・5・6
北赤石中の森と周辺の植生	発達状況が良好なコナラ・クリ林。樹高 20m 以上のまとまった林で、仙台市西部丘陵地の典型的な里山の植生がよく残されている。	5・6
名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場としても極めて貴重。	8・9
坪沼のオオバアサガラ林	支倉川沿いにオオバアサガラ林が残されている。ただし、道路拡張工事で消失した可能性があり、精査が必要。	3
奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。また、青葉山は、狭い地域内に 800 種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7・8
秋保地区の里山	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5・6・7

注：判断理由は表 3.1-40 の④に対応する。  
 [「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)より作成]

表 3.1-41(3) 重要な植物群落（植生自然度）

選定基準	植生区分	「平成 27 年度仙台市現存植生図」による凡例
⑤		
植生自然度 10	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	ヨシクラス、ヒルムシロクラス
植生自然度 9	ブナクラス域自然植生	モミーイヌブナ群集、ケヤキ群落 (IV)、ヤナギ高木群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV)

注：1. 選定基準は表 3.1-40 の⑤参照。

2. 植生区分は表 3.1-37 に準じた。



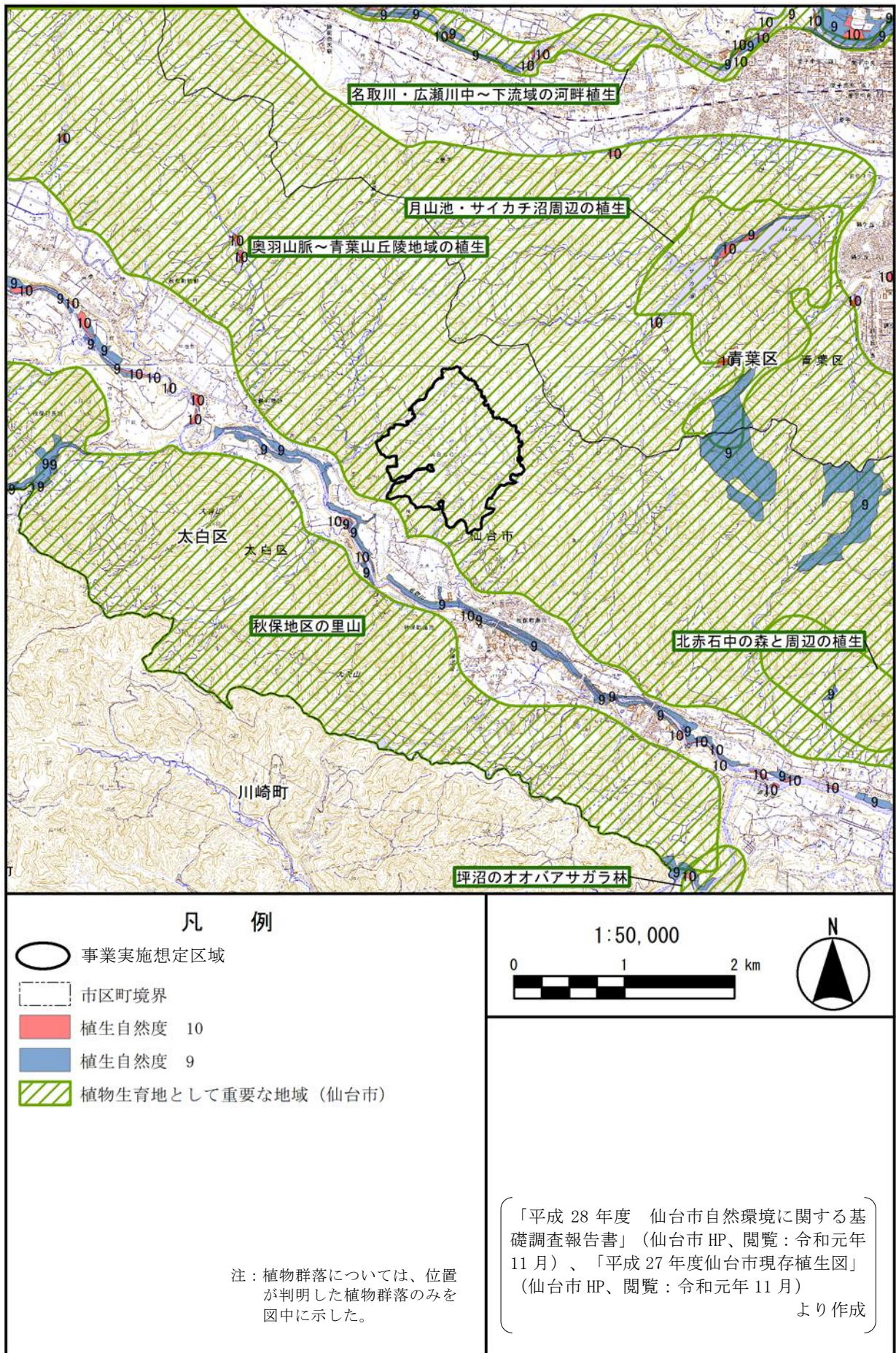


図 3.1-25 重要な植物群落の分布位置図

#### (4) 巨樹・巨木林・天然記念物

事業実施想定区域及びその周囲における巨樹・巨木林及び天然記念物並びに仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」で指定された「保存樹木、保存樹林、保存緑地」の位置は表 3.1-42、表 3.1-43 及び図 3.1-26 のとおりである。

「自然環境 Web-GIS 巨樹・巨木林調査データベース」（環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月）によると、巨樹・巨木林が 2 件、仙台市の「杜の都の名木・古木」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）及び「せんだいくらしのマップ」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）によると仙台市の保存樹木が 11 件分布しているが、それぞれ事業実施想定区域内には存在していない。

表 3.1-42 事業実施想定区域及びその周囲の巨樹・巨木

番号	市区名	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	仙台市太白区	ケヤキ	350	29
2		ケヤキ	380	23

〔「巨樹・巨木林調査データベース」（環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月）より作成〕

表 3.1-43 事業実施想定区域及びその周囲の仙台市の保存樹木

市区名	呼称	樹種	樹齢 (年)	幹周 (m)	樹高 (m)	指定年月日
仙台市青葉区	芋沢のいとひば	ヒヨクヒバ	400	12.5	4.5	平成 30 年 12 月 14 日
	上愛子のあかがし	アカガシ	—	19	3.1	平成 6 年 2 月 24 日
	せいざん (愛子) の臥龍梅	ウメ	420	1.75	1.96	平成 28 年 2 月 9 日
	同慶寺のいろはもみじ	イロハモミジ	—	14	3.3	平成 6 年 2 月 24 日
仙台市太白区	秋保中学校のけやき	ケヤキ	250	26	3.8	平成 6 年 2 月 24 日
	秋保のいちょう	イチョウ	500	33	—	平成 6 年 2 月 24 日
	秋保のひよくひば	ヒヨクヒバ	300	25	4	平成 6 年 2 月 24 日
	ホテル佐勘のうめ	ウメ	200	13	1.2	平成 6 年 2 月 24 日
	ホテル佐勘のきゃらぼく	キャラボク	250	6	1.2	平成 6 年 2 月 24 日
	ホテル佐勘のけやき	ケヤキ	250	32	4.3	平成 6 年 2 月 24 日
	ホテル佐勘のひいらぎ	ヒイラギ	200	7	1.5	平成 6 年 2 月 24 日

〔「杜の都の名木・古木」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）  
「せんだいくらしのマップ」（仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月）より作成〕



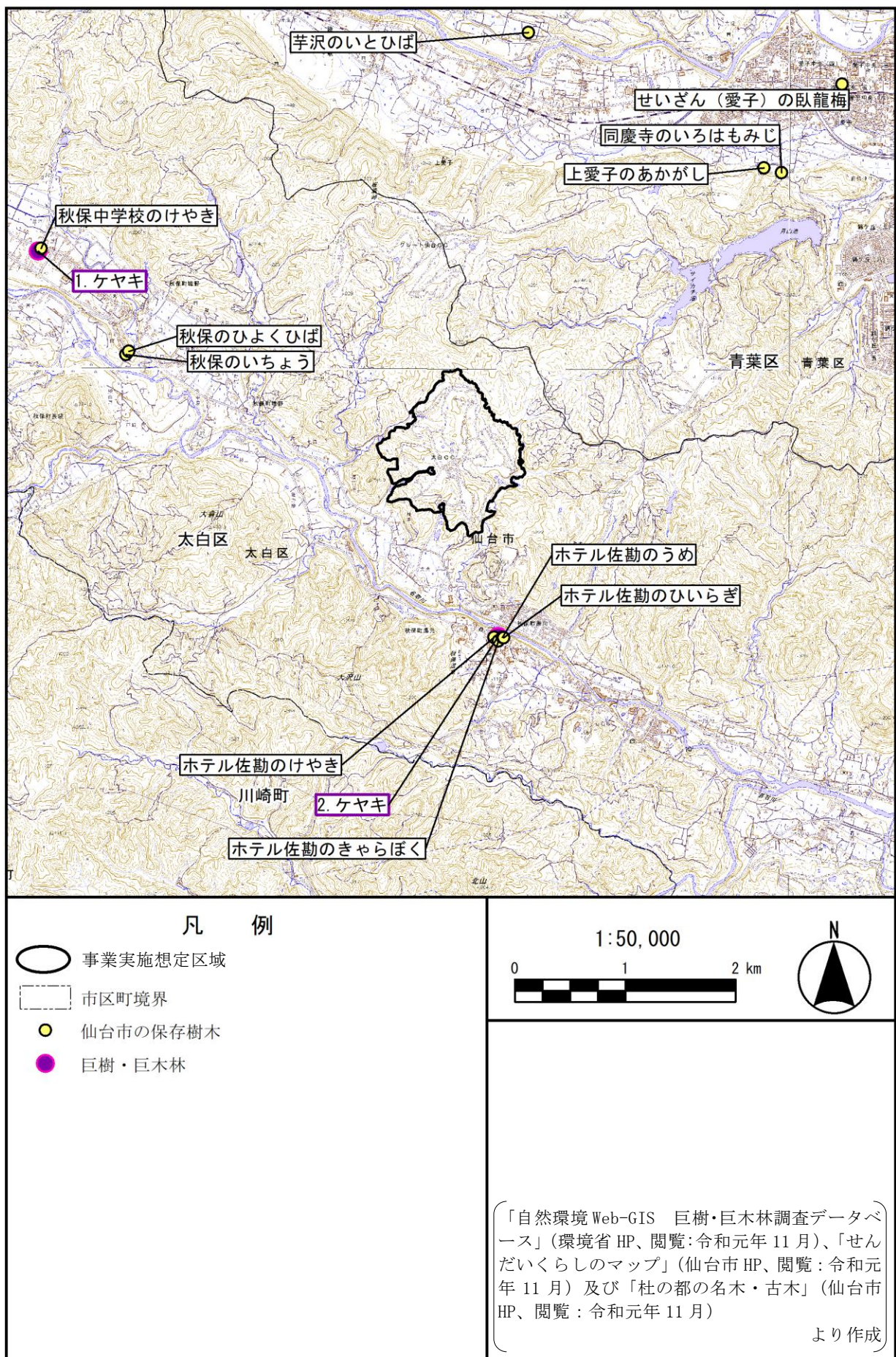


図 3.1-26 巨樹・巨木林・天然記念物等の分布位置



### 3. 生態系の状況

#### (1) 環境類型区分

事業実施想定区域及びその周囲の環境類型区分の概要は表 3.1-44、その分布状況は図 3.1-27 のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲は、地形、植生区分との対応関係により、自然林、二次林、植林地、草地・低木林、耕作地、河辺等、市街地等、河川等の 8 つの環境類型に区分される。

事業実施想定区域内は、二次林、植林地の樹林環境及び耕作地が分布しており、一部に草地・低木林が見られる。ゴルフ場として利用されていたため人為的な影響を強く受けていると考えられ、動植物の生息・生育基盤としては不安定であり、複雑な食物連鎖は発達していないと考えられる。

表 3.1-44 環境類型区分の概要

類型区分	主な地形	植生区分
1. 自然林	山地 丘陵地	モミイヌブナ群集、ケヤキ群落 (IV)
2. 二次林		アカマツ群落 (V)、クレーコナラ群集
3. 植林地	台地 (段丘)	スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林
4. 草地・低木林	丘陵地 台地 (段丘)	落葉広葉低木群落、ススキ群団 (V)、伐採跡地群落 (V)
5. 耕作地		ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落
6. 河辺等	台地 (段丘)	ヤナギ高木群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV)、ヨシクラス、ヒルムシロクラス
7. 市街地等		市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、造成地、自然裸地
8. 河川等	河川、湖沼	開放水域

注：1. 植生区分は、現存植生図 (図 3.1-23) の凡例に対応している。

2. 類型区分は図 3.1-27 の凡例と対応している。

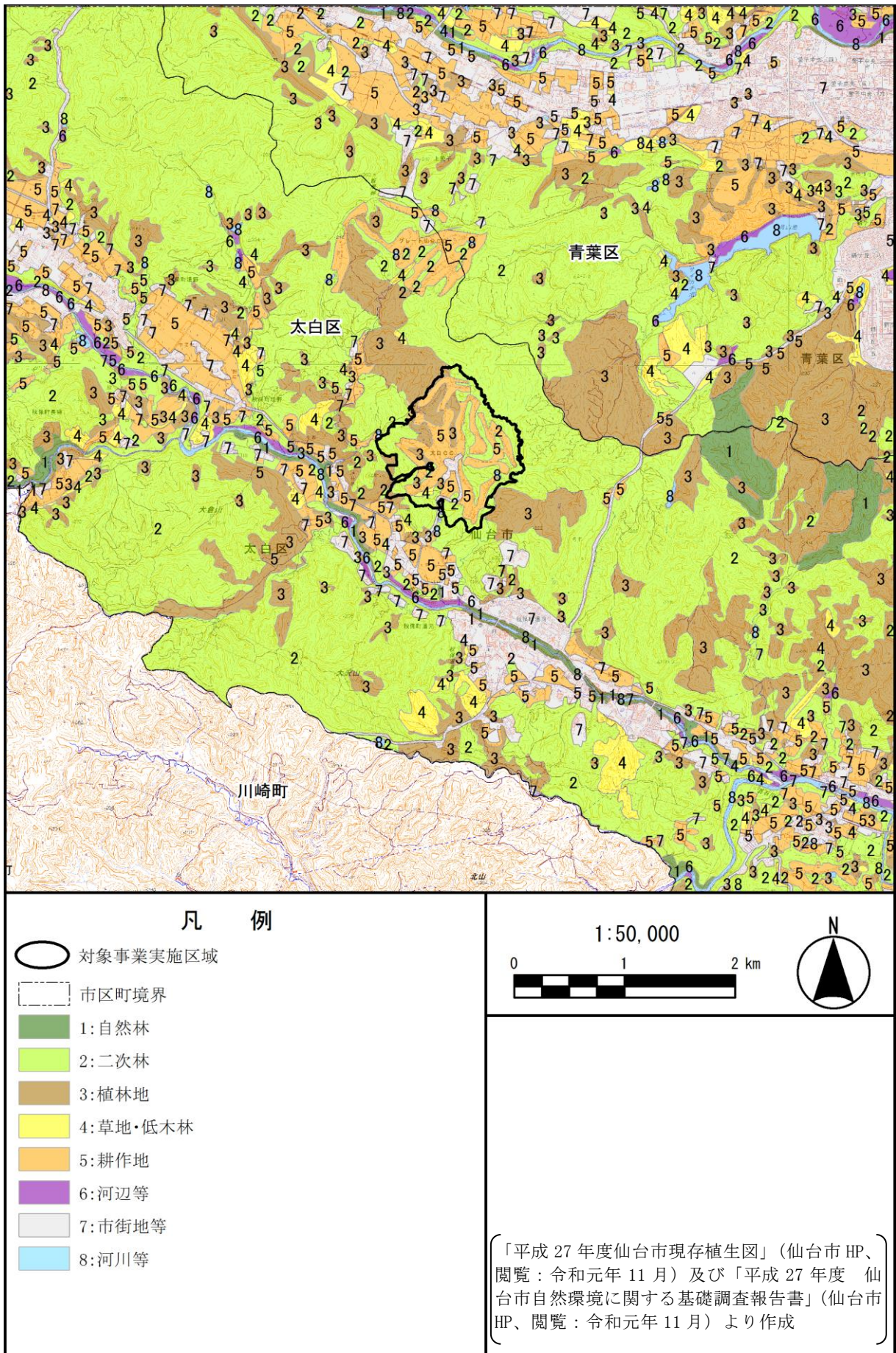


図 3.1-27 環境類型区分

## (2) 生態系の概要

地域の生態系（動植物群）を総合的に把握するため、文献その他の資料により確認された事業実施想定区域及びその周囲の環境類型、植生及び生物種から、生物とその生息環境の関わり、また、生物相互の関係について代表的な植生及び生物種を選定し、食物連鎖図として図 3.1-28 に概要を整理した。

事業実施想定区域及びその周辺には落葉広葉低木群落、クリーコナラ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、アカマツ群落（V）、水田雑草群落等が分布している。事業実施想定区域内は、「植林地・耕作地植生」であるゴルフ場・芝地と「ヤブツバキクラス域代償植生」であるクリーコナラ群集が多くを占めており、次いでスギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地、落葉広葉低木群落、開放水域及び路傍・空地雑草群落がわずかながら分布している。

これらのことから、事業実施想定区域及びその周囲の生態系は、二次林、植林地（広葉樹林・針葉樹林）、耕作地（乾性草地）及び河川等（水域）を基盤に成立しているものと考えられる。

陸生の生態系では、アカマツ群落（V）、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クリーコナラ群集、水田雑草群落、ゴルフ場・芝地等及び水田雑草群落、ゴルフ場・芝地等に生育する植物を生産者として、第一次消費者としてはチョウ（ガ）類、カメムシ類、トノサマバッタ等の草食性の昆虫類やノウサギ等の草食性の哺乳類、ヤマドリ、キジバト等の草食性の鳥類が、第二次消費者としてはトンボ類、スズメバチ類等の肉食性昆虫類が存在する。また、第三次消費者としてはヤマガラ、モズ等の鳥類、モリアオガエル等のカエル類、トウホクサンショウウオ等の両生類やニホンカナヘビ等の爬虫類が、第四次消費者としては、アオダイショウ等の爬虫類が存在すると考えられる。さらに、これらを餌とする最上位の消費者として、キツネ等の中型の哺乳類やオオタカやフクロウ等の猛禽類が存在すると考えられる。

水域の生態系では、河川等の植物性プランクトンを基盤とする植物を生産者として、第一次消費者としてはカゲロウ類等の草食性の昆虫等が、第二次消費者としては第二次消費者としてはアカハライモリ等の両生類やギンヤンマ等の肉食性昆虫類が、第三次消費者としてはサクラマス（ヤマメ）やゲンゴロウ等が存在する。

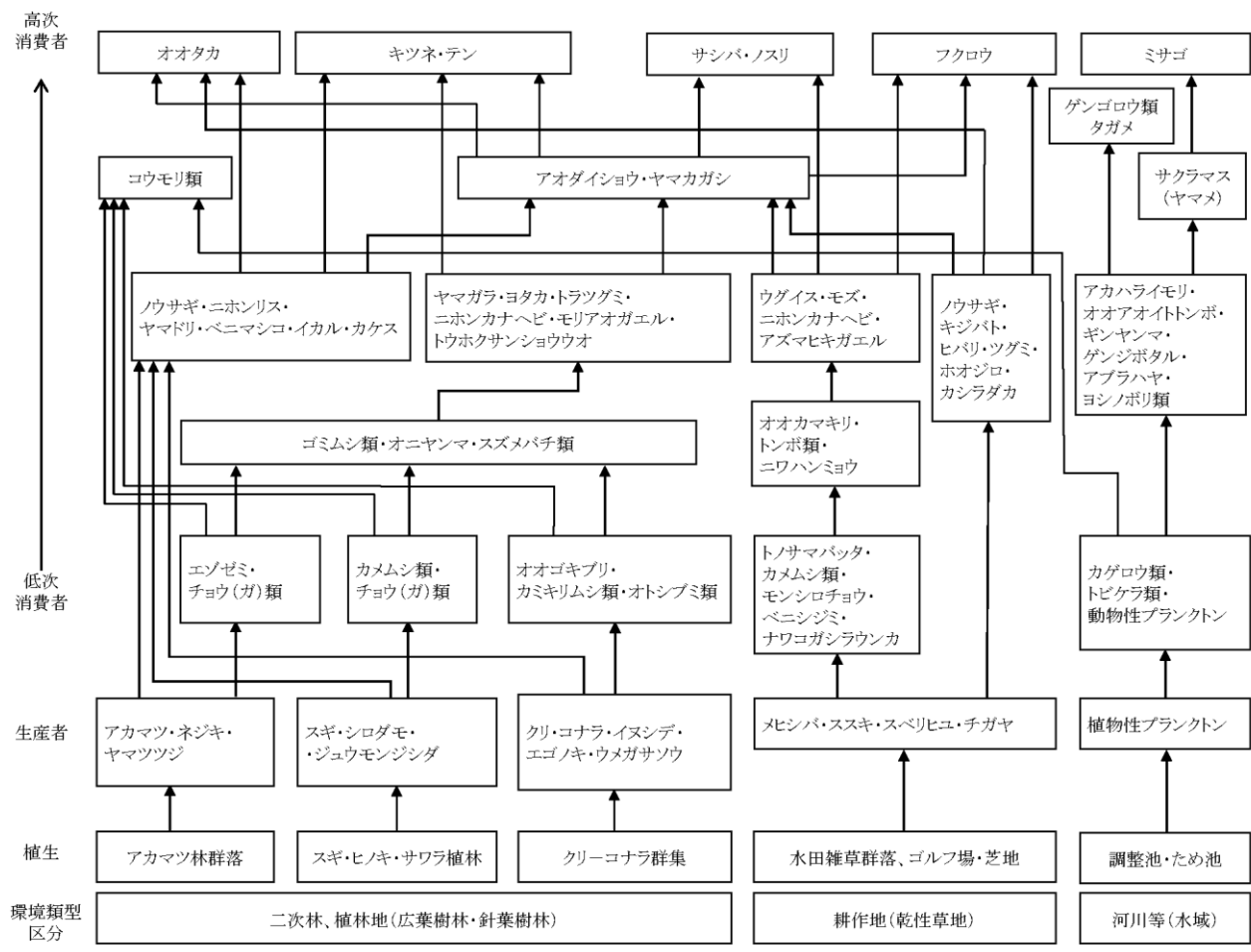


図 3.1-28 食物連鎖模式図



### (3) 重要な自然環境のまとまりの場

事業実施想定区域及びその周囲の自然環境について、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場及び自然植生は表 3.1-45 及び図 3.1-29 のとおりである。

表 3.1-45 事業実施想定区域及びその周囲の重要な自然環境のまとまりの場

重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
自然植生	植生自然度 10	仙台市植生図におけるヨシクラス、ヒルムシロクラス等に該当する植生であることから抽出した。
	植生自然度 9	仙台市植生図におけるモミーイヌブナ群集、ケヤキ群落 (IV) 等に該当する植生であることから抽出した。
自然公園	県立自然公園二口峡谷	自然公園法及びそれに基づく都道府県の条例の規定に基づき、その都道府県を代表する優れた風景地について指定された自然公園の一種であることから抽出した。
保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境であることから抽出した。
鳥獣保護区	釜房鳥獣保護区	鳥獣の保護を図るため、保護の必要があると認められた地域であることから抽出した。
巨樹・巨木林		自然環境保全基礎調査において定められた原則幹回りが 3m 以上の巨樹・巨木林であることから抽出した。
天然記念物	イヌワシの生息地 (国天)	学術上価値の高い動物 (生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物 (自生地を含む。) が指定されていることから抽出した。
	カモシカの生息地 (国天)	
仙台市の保存樹木		仙台市において地域を象徴するランドマークとしての樹木や樹林をふるさとの緑として指定されていることから抽出した。
宮城県自然環境保全地域	釜房湖県自然環境保全地域 (普通地区)	「宮城県自然環境保全条例」(昭和 48 年宮城県条例第 31 号) において定められた「自然環境保全地域、普通地区」に該当することから抽出した。
	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域	「宮城県自然環境保全条例」(昭和 48 年宮城県条例第 31 号) において定められた「緑地環境保全地域」に該当することから抽出した。
環境アセスメントデータベース センシティブティマップ		重要種のイヌワシの生息が確認されているため、注意喚起レベル A3 に該当することから抽出した。
仙台市「動物生息地として重要な地域」	広瀬川 (中～下流域)	仙台市において重要な地域の選定基準に基づき「動物生息地として重要な地域」として選定されていることから抽出した。
	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	
	秋保地区	
	名取川 (上～中流域)	
仙台市「植物生育地として重要な地域」	月山池・サイカチ沼周辺の植生	仙台市において重要な地域の選定基準に基づき「植物生育地として重要な地域」として選定されていることから抽出した。
	北赤石中の森と周辺の植生	
	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	
	坪沼のオオバアサガラ林	
	奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	
	秋保地区の里山	

「平成 27 年度仙台市現存植生図」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「自然公園等区域閲覧サービス」(宮城県 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「国土数値情報 (森林地域データ・平成 27 年度)」(国土交通省国土政策局国土情報課 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「令和元年度 宮城県鳥獣保護区等位置図」(宮城県、令和元年)、「自然環境 Web-GIS 巨樹・巨木林調査データベース」(環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「環境省報道発表資料ー希少猛禽類調査 (イヌワシ・クマタカ) の結果についてー」(環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー (第 6 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書)」(環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月)「せんだいくらしのマップ」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「杜の都の名木・古木」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「県自然環境保全地域・緑地環境保全地域の指定状況」(宮城県 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「環境アセスメントデータベース センシティブティマップ」(環境省 HP、閲覧：令和元年 11 月)、「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市 HP、閲覧：令和元年 11 月) より作成

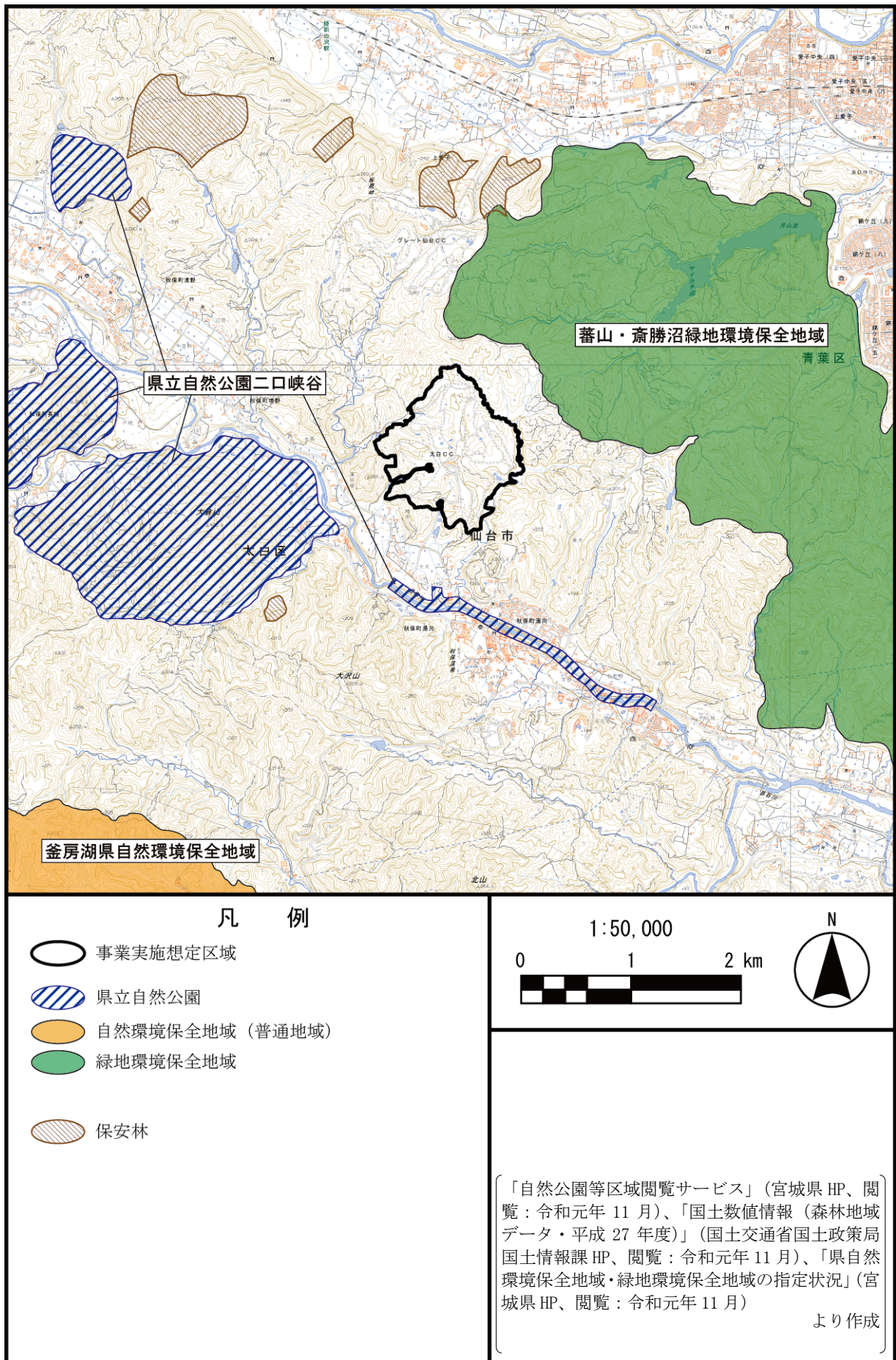


図 3.1-29(1) 重要な自然環境のまとまりの場 1



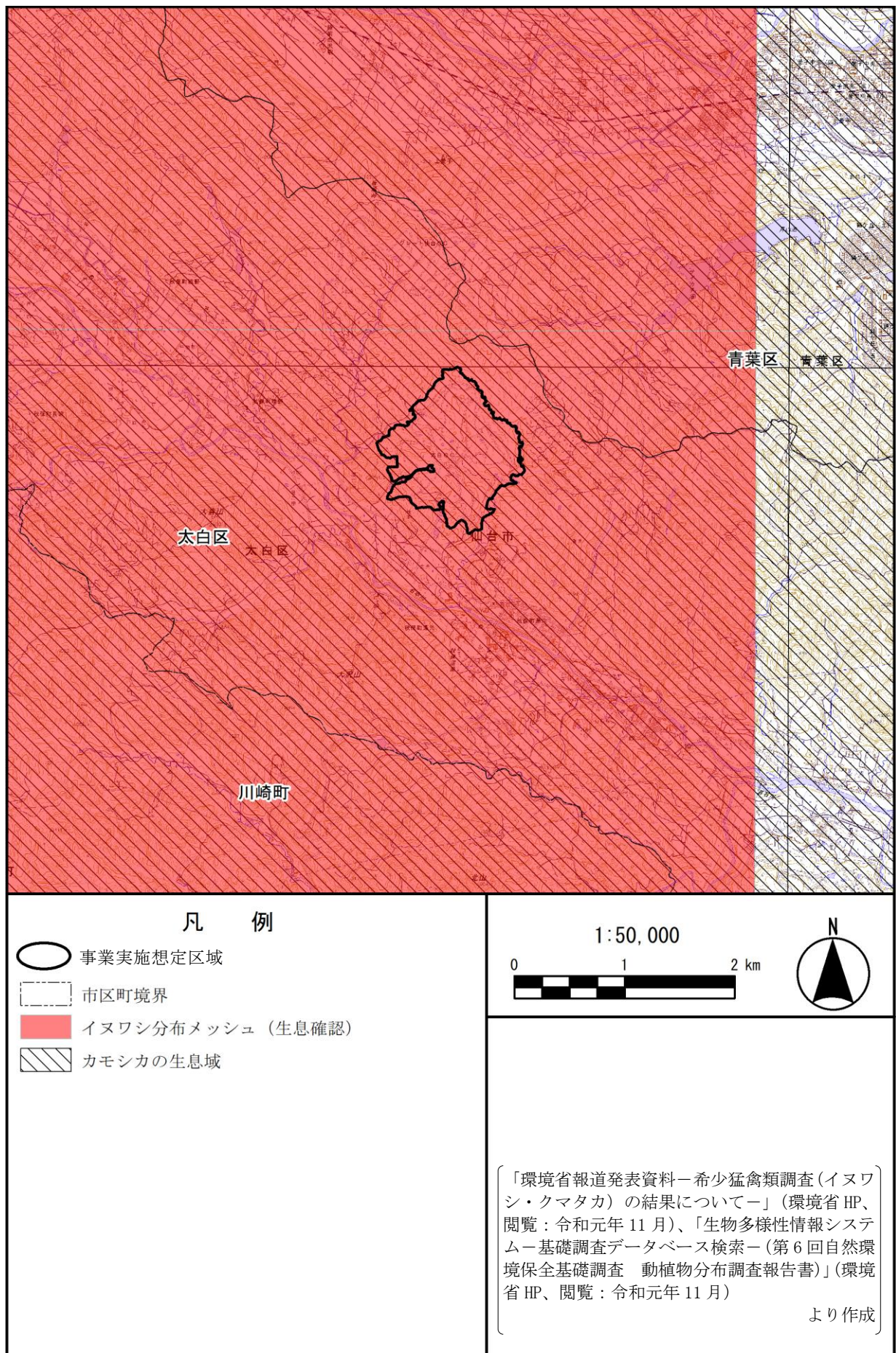


図 3.1-29(2) 重要な自然環境のまとまりの場 2



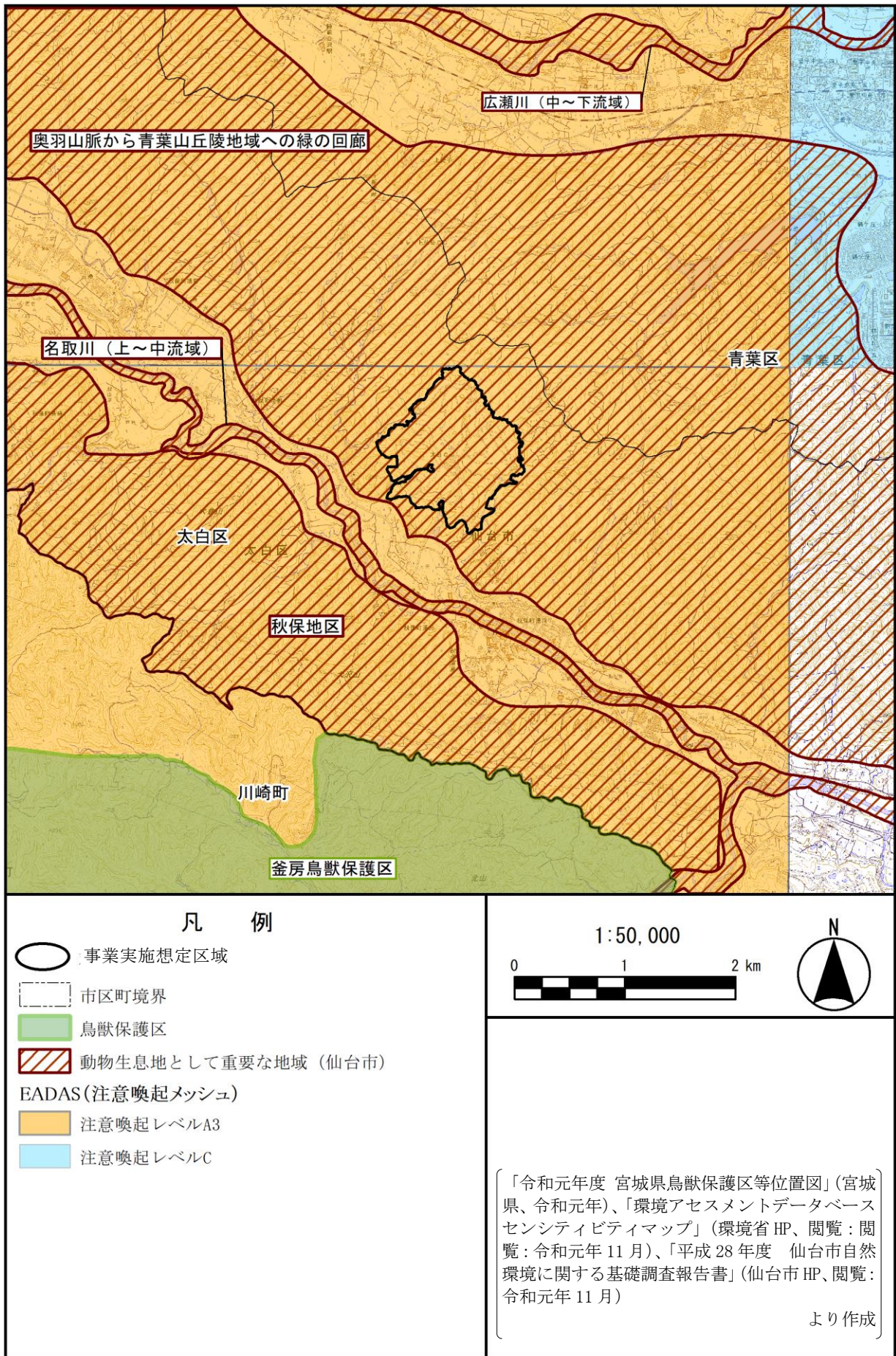


図 3.1-29(3) 重要な自然環境のまとまりの場 2



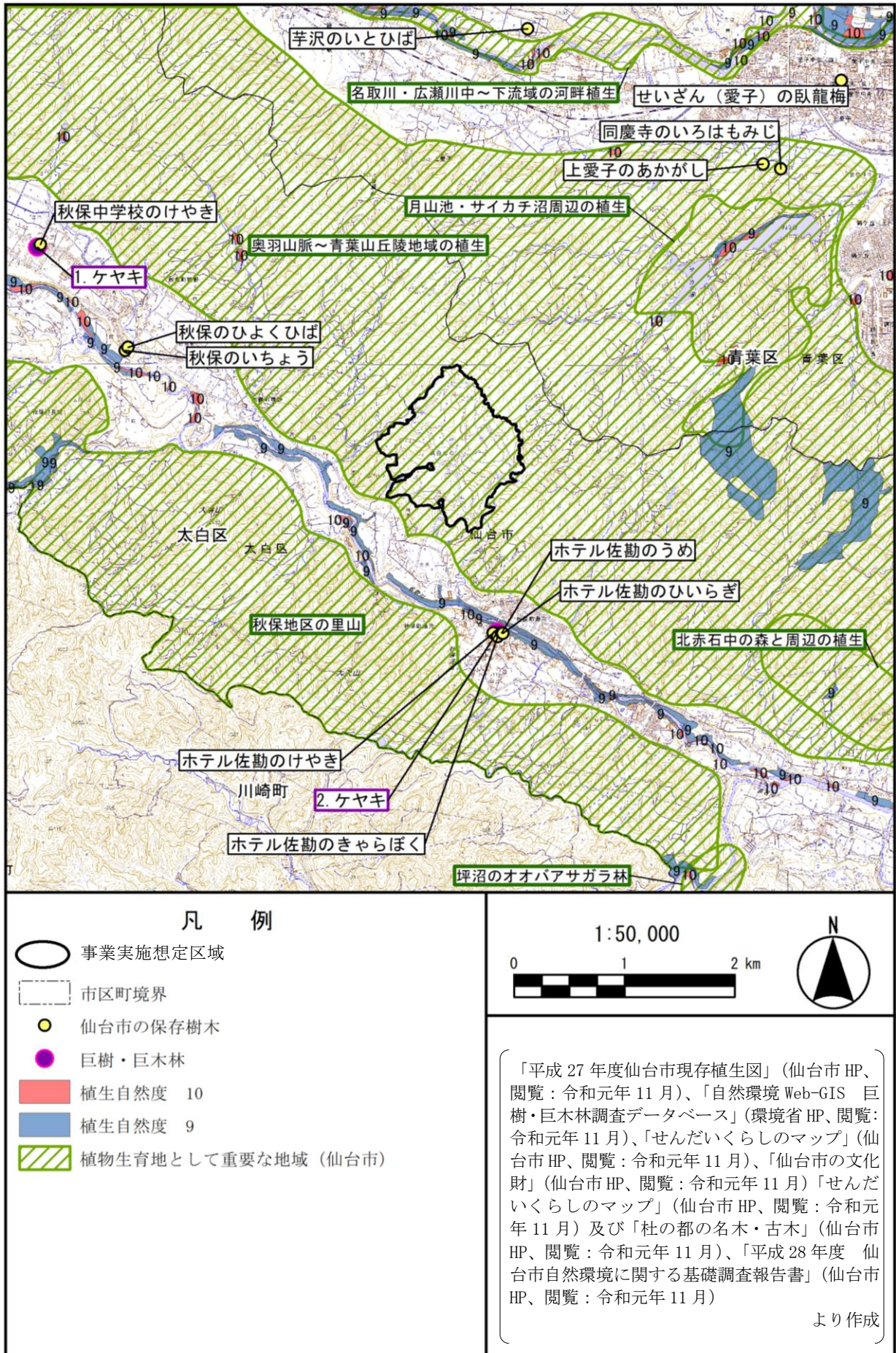


図 3.1-29(4) 重要な自然環境のまとめりの場 3

### 3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

#### 1. 景観の状況

事業実施想定区域は宮城県中央部に位置し、西には奥羽山脈がそびえ、周囲には名取川水系の名取川、広瀬川等が流れている。事業実施想定区域の南側、西側には県立自然公園二口峡谷が存在する。

仙台市では「景観法」（平成 16 年法律第 110 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日）に基づく「仙台市「杜の都」景観計画」（仙台市、平成 21 年）により、市内全域を景観計画区域としており、景観計画区域内における建築物及び工作物の新築、色彩の変更等（高さ、面積等基準あり）といった行為には、行為着手の 30 日前までの届出を義務付けている。また、良好な景観の形成のため、形態・意匠、色彩等の行為の制限を定めている。

### (1) 主要な眺望点の分布及び概要

文献その他の資料調査結果を踏まえ、以下の条件を勘案し抽出した。

- ・ 公的な HP や観光パンフレット等に掲載されている情報であること。
- ・ 不特定かつ多数の利用がある地点又は眺望利用の可能性のある地点であること。

事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点は、表 3.1-46 及び図 3.1-30 のとおり、希少なアカマツの美林に囲まれた湯元公園等がある。

表 3.1-46 主要な眺望点

眺望点	概要
大倉山	山頂に羽山権現が鎮座し、テレビの中継アンテナが立つ境野地区のシンボルの山。山頂からは秋保温泉や仙台湾を望むことができ、朝日の御来光を背に羽山権現を拝礼することができる。
サイカチ沼周辺	大正時代に仙台地方の灌漑用ため池として建設された人工の沼である。サイカチ沼を取り囲む山々には、ハイキングコースが整備されており、新緑から紅葉まで四季折々の自然を楽しむことができる。春にはカタクリやヒメシャガの花、夏にはヤマユリやアザミの花が咲き、クワガタやカブトムシのほか多くの昆虫が私たちを楽しませてくれる。時にはニホンカモシカと出会うこともある、自然の豊かな場所である。
楯山・楯山城跡	標高 334m で、登山口から急坂をゆっくり登ると、約 30 分で平らに開けた草地に出る。秋保郷のほぼ全域を見渡すことができる。
湯元小屋館跡自然庭園 (天守閣自然公園)	回遊式日本庭園で、自然景観を巧みにとりこんだ溪石群と山野草の散策路が楽しめる。また、天然温泉、足湯、オートキャンプ場等の施設が併設されている。錦鯉の群泳する和風庭園は、四季折々の草花小鳥たちのさえずりが心地よく、自然を満喫することができる。
湯元公園周辺	仙台の奥座敷として知られる秋保温泉郷にあり、近頃ではなかなか見ることができないアカマツの美林に囲まれた公園である。西側の高台にはアスレチック広場やあずまやがあり、温泉街を一望できる。

「杜の都・仙台 わがまち緑の名所 100 選」(仙台市 HP)  
「せんだい旅日和」(仙台観光国際協会 HP)  
「秋保ミュージアム環境整備事業」(仙台市 HP)  
(各 HP 閲覧：令和元年 11 月) より作成



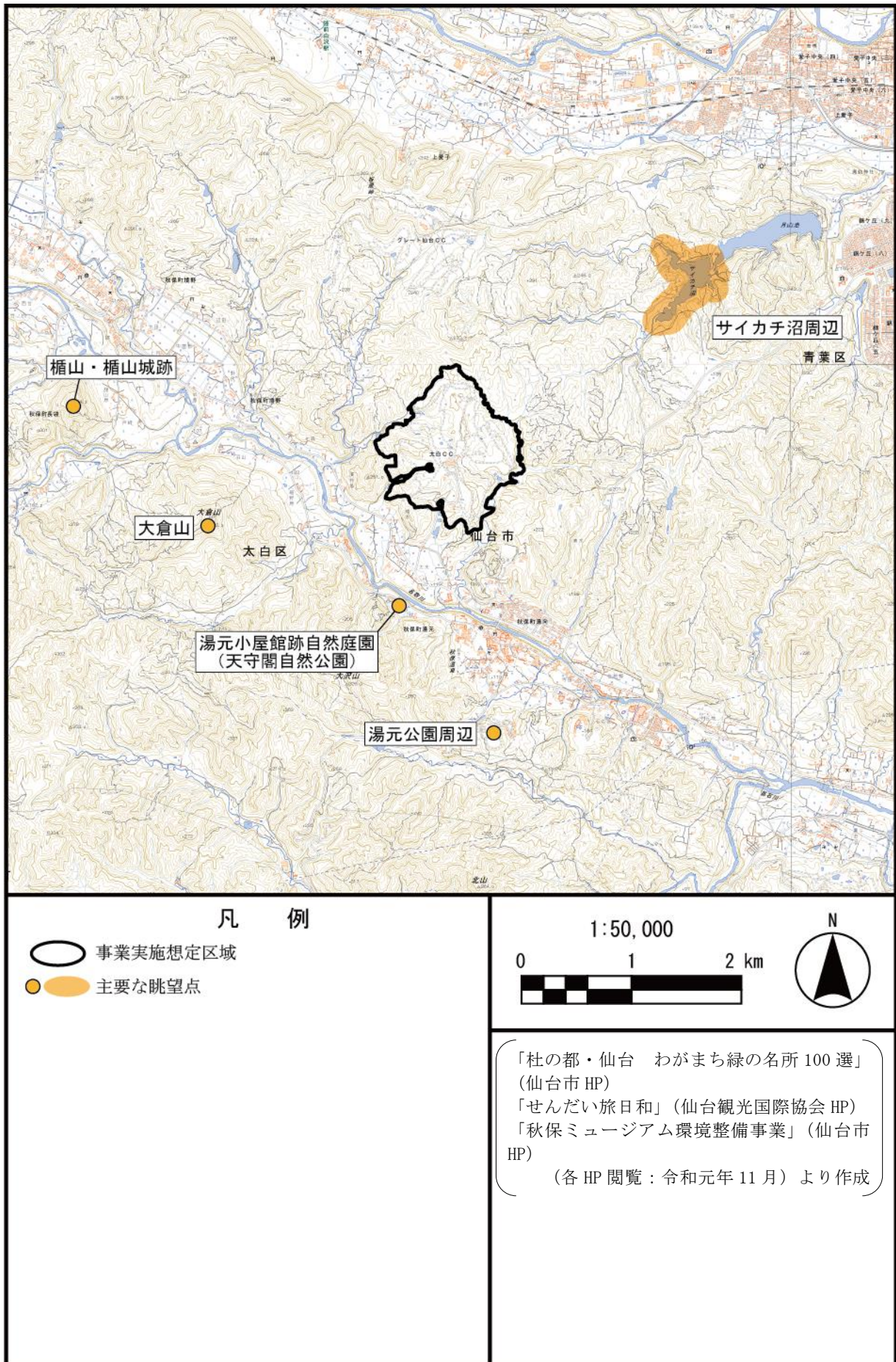


図 3.1-30 主要な眺望点の状況



## (2) 景観資源

「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)による自然景観資源は、表3.1-47及び図3.1-31のとおり、巨石を刻んで流れる峡谷の磊々峡等がある。

また、歴史的・文化的景観資源は、表3.1-48及び図3.1-32のとおりである。「諏訪神社」は宮城県の指定文化財にも指定されている。

表 3.1-47 自然景観資源

自然景観資源名	名称	概要
非火山性孤峰	中の森	県緑地環境保全地域。北赤石にある火山岩頭。鹿の上山、亀ヶ森とあわせて三高ヶ森とよばれる。円錐形の山が3つ並んでそびえ、中央の中の森にはさまざまな神がまつられている。標高295m、比高135m。
	鹿の上山	県緑地環境保全地域。北赤石にある火山岩頭。中の森、亀ヶ森とあわせて三高ヶ森とよばれる。標高326m、比高160m。
	大倉山	県立自然公園二口峡谷。標高432.7m、比高212m。
峡谷・溪谷	基石川溪谷	延長2.5km、巾200～300m、深さ100～200m。
	磊々峡	県立自然公園二口峡谷。巨石を刻んで流れる峡谷。延長1.9km、巾100m、深さ50～80m。
	名取川支流本砂金川	延長3.2km、巾100～200m、深さ50～150m。
	仙台市白沢・広瀬川中流付近	延長3.9km、巾80～150m、深さ80～100m。
河成段丘	仙台市北赤石名取川畔	段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長4.1km、比高40m、段数1。
	落合・愛子・白沢広瀬川畔	数段にわたる典型的な河成段丘の景観。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長13.0km、比高50～100m、段数4～5。

〔「第3回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成元年)  
「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、平成29年)より作成〕

表 3.1-48 歴史的・文化的景観資源

種類	名称	所在地
神社	諏訪神社	青葉区上愛子宮下40
寺	大門寺	青葉区愛子中央3丁目22-36
寺	保寿寺	太白区秋保町境野辺田山15
寺	泉明寺	太白区秋保町湯元薬師99
寺	同慶寺	青葉区上愛子芋郷61
寺	竜角寺	青葉区上愛子大針14-1
寺	向泉寺	太白区秋保町長袋二ノ輪山67

〔「ゼンリン地図サイト いつもNAVI」(ゼンリンデータコムHP、閲覧：令和元年12月)より作成〕

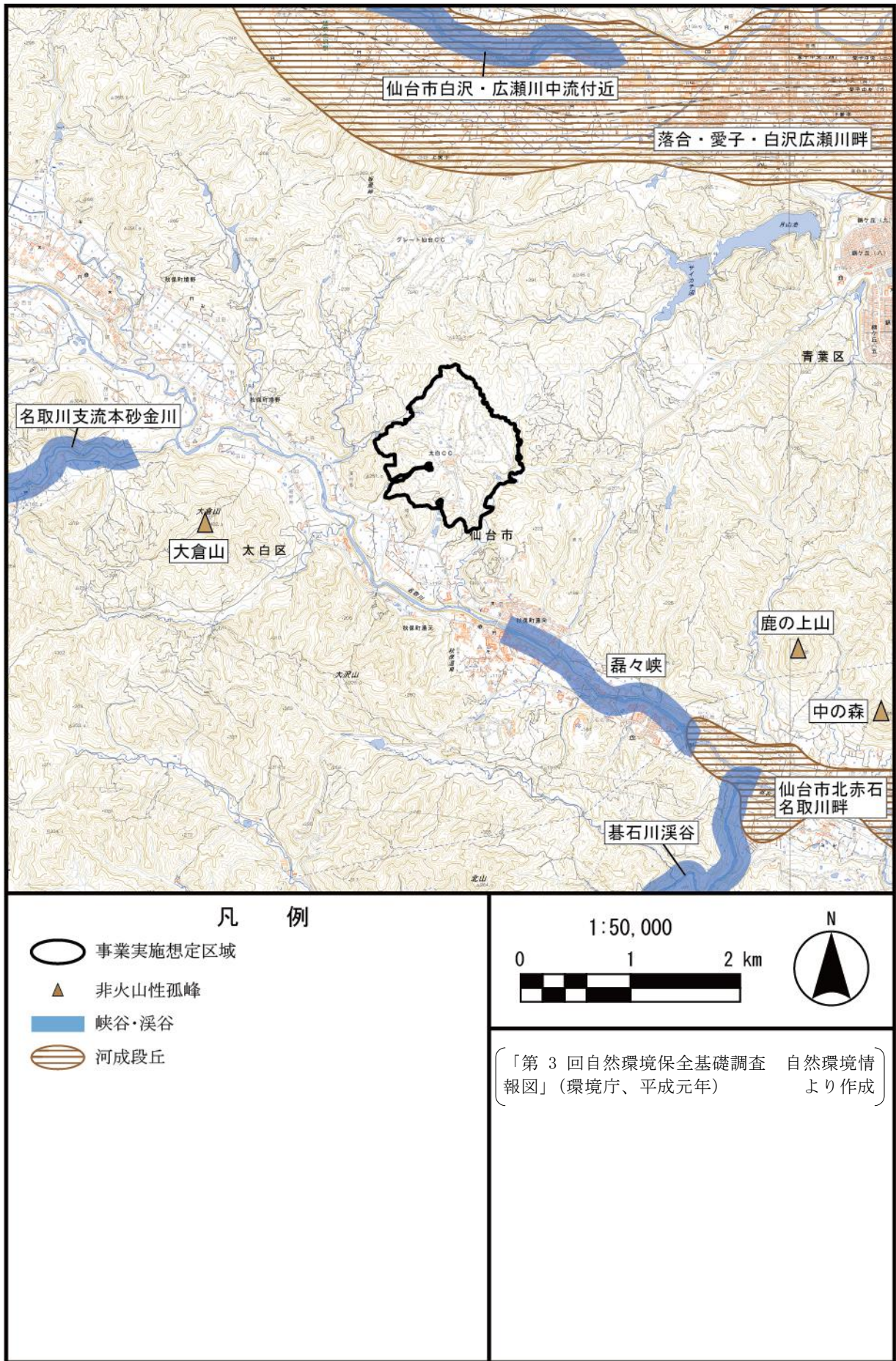


図 3.1-31 自然景観資源の状況



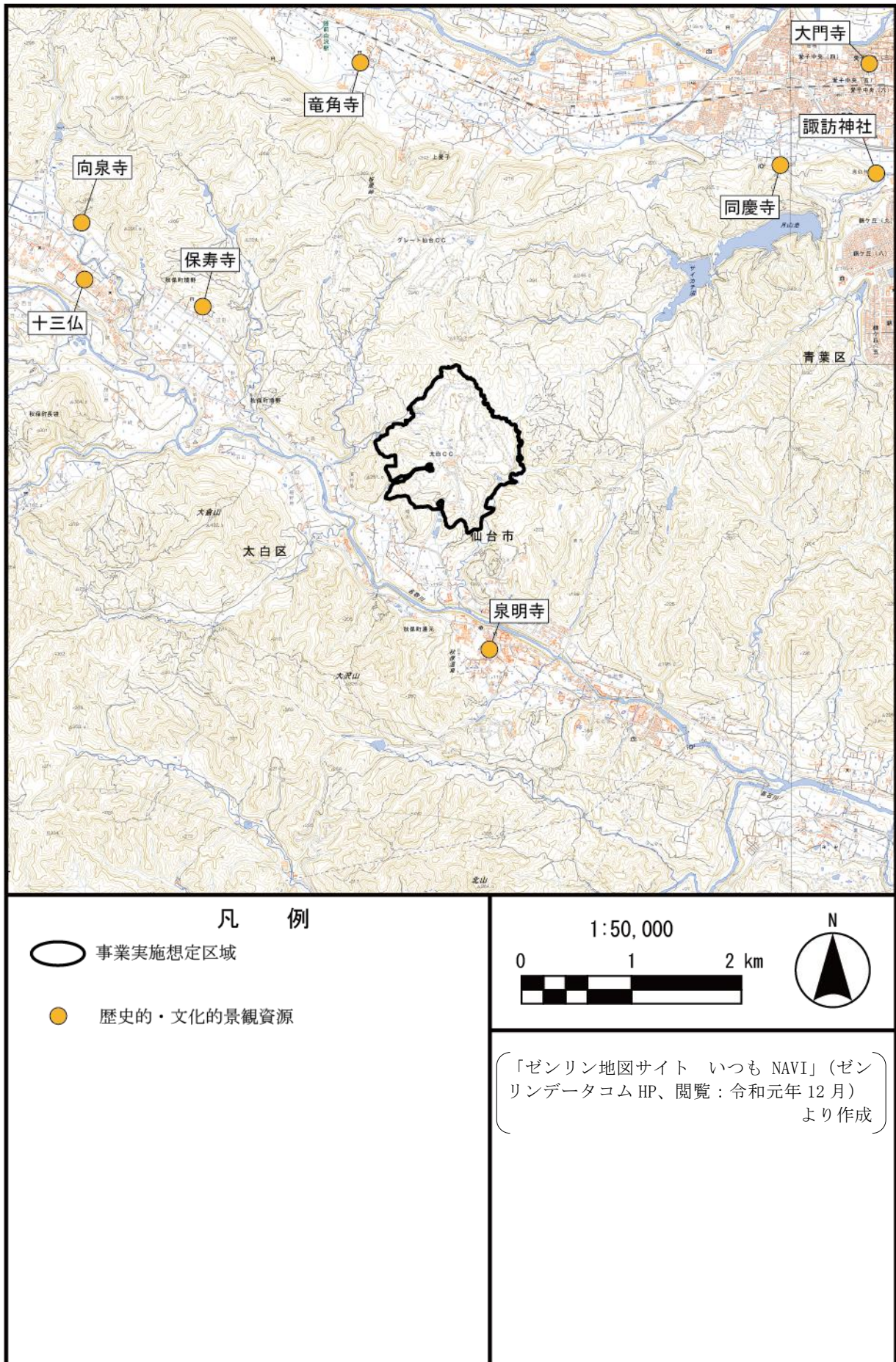


図 3.1-32 歴史的・文化的景観資源

## 2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施想定区域及びその周囲における、人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 3.1-49 及び図 3.1-33 のとおり「磊々峡」や「名取川（秋保町長袋・館下橋付近）」等が存在する。

表 3.1-49(1) 人と自然との触れ合いの活動の場

名称	想定する主な活動	概要
広瀬川上流域	自然観賞 散策	広瀬川上流は兩岸が深く切れ込み、その谷底を清く美しい水が流れている。広瀬川に架かる鳴合橋の上からの景観はすばらしく、広瀬川に注ぐ小さな滝を眺望することもできる。広瀬川の周囲は、春から初夏にかけてすがすがしい新緑となり、秋はあたかも赤や黄色に染まった山々の間に一筋の青い線を引いたような美しい渓谷に変わる。また、秋の川原では、紅葉を楽しむ人や東北地方ならではの「芋煮会」に興じる人たちで賑わう。広瀬川は、四季を通じて仙台市民が憩いや安らぎを求めて集う、心のふるさとである。熊ヶ根橋から少し下流のところには、川に削られた黄白色の断層が目の前に広がる。
サイカチ沼周辺	自然観賞 散策	大正時代に仙台地方の灌漑用ため池として建設された人工の沼である。サイカチ沼を取り囲む山々には、ハイキングコースが整備されており、新緑から紅葉まで四季折々の自然を楽しむことができる。サイカチ沼にはフナなどが生息し、周囲の深い森は多くの動物や野鳥のすみかになっている。下流側に月山池も造られ、サイカチ沼一帯は、釣りや野鳥観察、ハイキングなどのアウトドアを楽しむ人たちが集う拠点となった。春にはカタクリやヒメシヤガの花、夏にはヤマユリやアザミの花が咲き、クワガタやカブトムシのほか多くの昆虫が私たちを楽しませてくれる。時にはニホンカモシカと出会うこともある、自然の豊かな場所である。
磊々峡	自然観賞 散策	名取川が兩岸の絶壁を削り取るように流れ、流れに浸食された鋭い角をもった巨岩がおおいかぶさるように迫り、奇観を呈している。それらの岩は「八間岩（はちけんいわ）」「鳴合底（なりあいそこ）」など、ユニークな名前がつけられている。これらは石英安山岩凝灰岩（別名秋保石）で、堅くて耐火性に富み加工が容易なため、建築用材として利用されていた。視橋下流の峡谷沿いに遊歩道が設けられており、間近で渓谷美を觀賞することができる。なお、「磊々峡」は、昭和6年に夏目漱石の門人、東北大学名誉教授の小宮豊隆氏により命名された。秋保温泉の入口にかかる視橋を中心にして、上流・下流約1km続く峡谷である。
名取川（秋保町長袋・館下橋付近）	自然観賞 散策	名取川に架かる館下橋から上流を望むと、遠く二口の山々が連なっている。また、下流側には、山々の木々が川に寄り添うように林立し、樹影が鏡のように川面に映し出されている。川原には、とがった二つの三角の岩があり、風景にアクセントを添えている。この辺りは、川幅が変化に富み、その中で清い水が流れている。また、館下橋から下流部の大倉山の麓近くの羽山橋付近までは、隠れたサクラの名所である。道路沿いのサクラを眺めながら散策を楽しみ、鴻巣温泉や神ヶ根温泉で汗を流すこともできる。秋の紅葉も美しいところである。

「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選」（仙台市 HP）  
「せんだい旅日和」（仙台観光国際協会 HP）  
「SENDAI SATOYAMA RIDE」（仙台里山ライド HP）  
（各 HP 閲覧：令和元年11月）より作成

表 3.1-49(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

名 称	想定する 主な活動	概 要
湯元小屋館跡自然庭園 (天守閣自然公園)	自然観賞 散策 キャンプ	回遊式日本庭園で、自然景観を巧みにとりこんだ溪石群と山野草の散策路が楽しめる。また、天然温泉、足湯、オートキャンプ場等の施設が併設されている。錦鯉の群泳する和風庭園は、四季折々の草花小鳥たちのさえずりが心地よく、自然を満喫することができる。
秋保森林スポーツ公園	自然観賞 散策 キャンプ	美しく広大な森の中に沢山のスポーツ施設、キャンプ場、オートキャンプ場等があり、自然とのふれあい、人とのふれあいを体感できる。園内のクラブハウス内には、源泉掛け流しの温泉大浴場、男女別露天風呂があります。
湯元公園周辺	自然観賞 散策	仙台の奥座敷として知られる秋保温泉郷にあり、近頃ではなかなか見ることができないアカマツの美林に囲まれた公園である。西側の高台にはアスレチック広場やあずまやがあり、温泉街を一望できる。湯元公園の隣には、「仙台こけし」や「仙台筆筒」「埋もれ木細工」「染色」など、仙台の伝統工芸の工房を一同に集めた「秋保工芸の里」があり、訪れる人たちに見事な“職人の技”を披露している。
SENDAI SATOYAMA RIDE サイクリングコース	サイクリ ング	秋保の豊かな自然の景色を楽しむポタリングコースや厳しい上り坂が続く林道コースなど、10～30kmのコースが設定されている。

「杜の都・仙台 わがまち緑の名所 100 選」(仙台市 HP)  
「せんだい旅日和」(仙台観光国際協会 HP)  
「SENDAI SATOYAMA RIDE」(仙台里山ライド HP)  
(各 HP 閲覧：令和元年 11 月) より作成



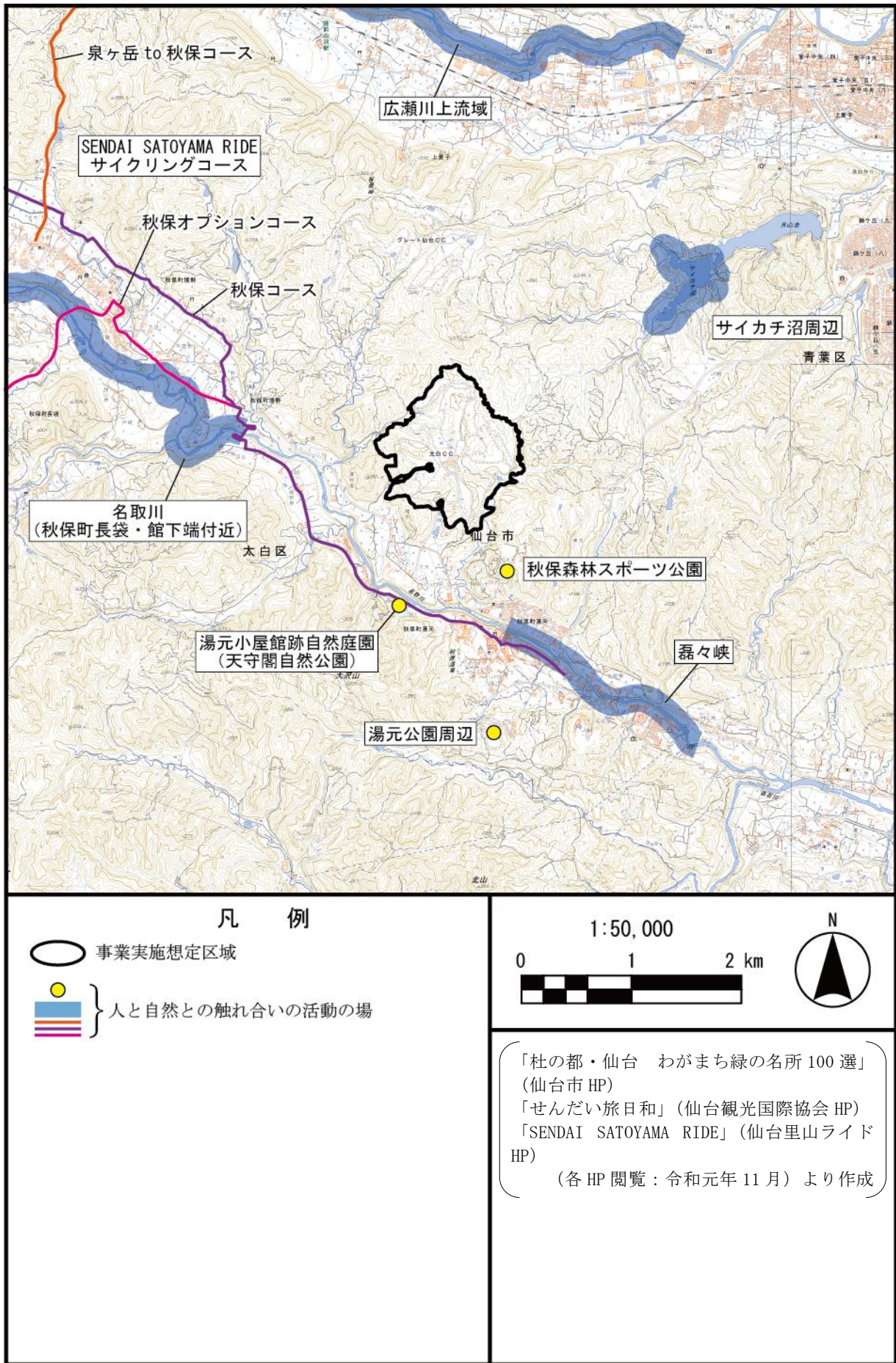


図 3.1-33 人と自然との触れ合いの活動の場



### 3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

事業実施想定区域の近傍における空間放射線量率の測定地点は図 3.1-35 のとおりであり、秋保総合支所で測定が実施されている。過去 5 年間における空間放射線量率年平均値の経年変化は、表 3.1-50 及び図 3.1-34 のとおりである。

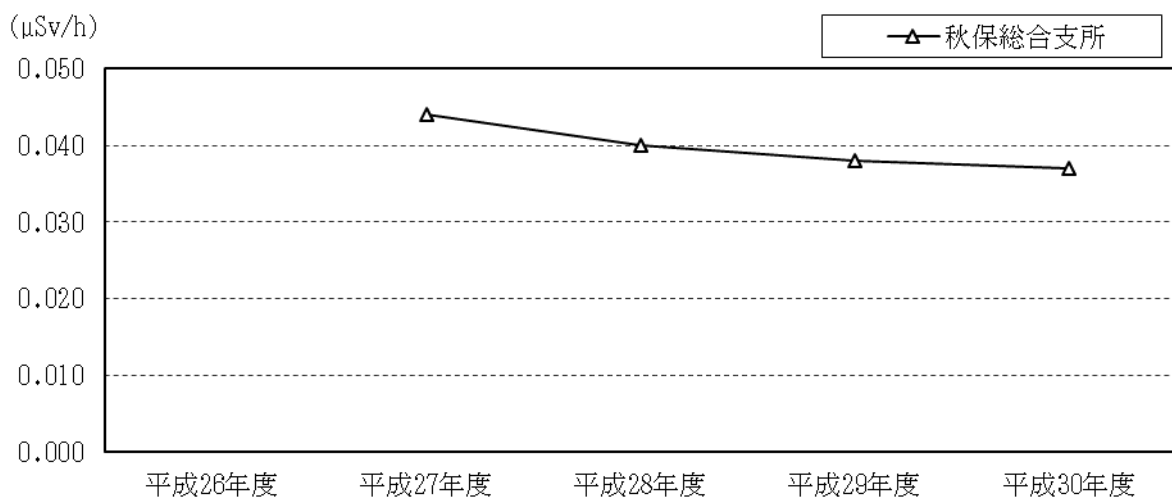
表 3.1-50 空間放射線量率の年平均値の経年変化（平成 26～30 年度）

（単位：μSv/h）

市	測定局	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
仙台市	秋保総合支所	—	0.044	0.040	0.038	0.037

注：秋保総合支所は平成 27 年 3 月 16 日より測定を開始した。

〔「空間放射線量の測定結果」（仙台市 HP、閲覧：令和 2 年 3 月）より作成〕



注：秋保総合支所は平成 27 年 3 月 16 日より測定を開始した。

〔「空間放射線量の測定結果」（仙台市 HP、閲覧：令和 2 年 3 月）より作成〕

図 3.1-34 空間放射線量率の年平均値の経年変化（平成 26～30 年度）

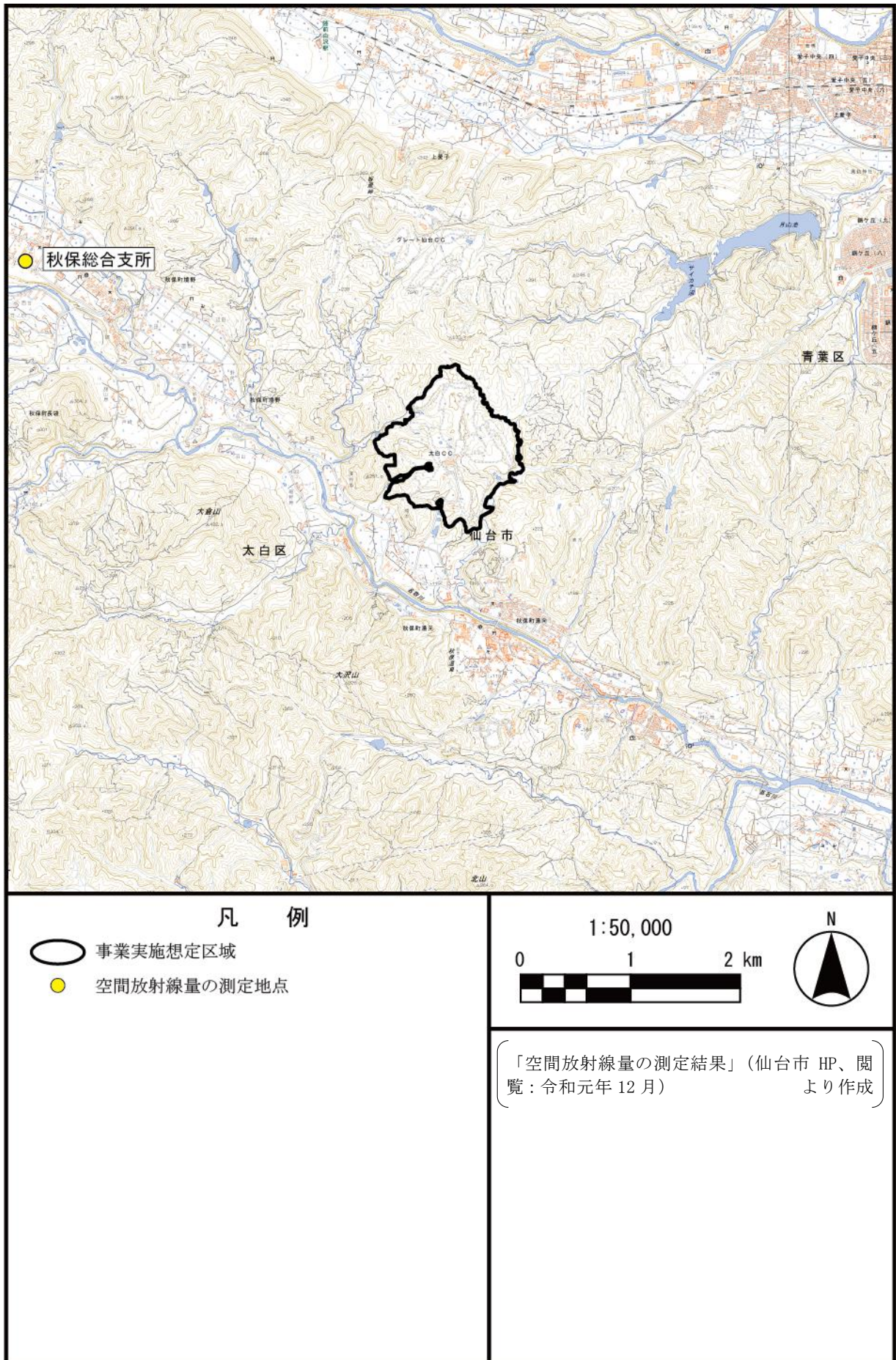


図 3.1-35 空間放射線量率測定地点